

セントラルパーク

基本計画



令和元年 6 月

福岡県・福岡市

セントラルパーク基本計画検討委員会 委員名簿

(行政を除き五十音順、敬称略)

氏名	役職名
【委員長】 杉本 正美	九州芸術工科大学 名誉教授
【副委員長】 蓑茂 壽太郎	一般財団法人公園財団 理事長
伊東 順二	東京芸術大学社会連携センター 特任教授
小田 富士雄	鴻臚館跡整備検討委員会 委員長 (福岡大学 名誉教授)
古賀 弥生	九州産業大学地域共創学部地域づくり学科 教授 アートサポートふくおか 代表
高瀬 哲郎	福岡城跡整備基本計画検討委員会 委員 (元 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長)
辰巳 浩	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授
横山 秀司	九州産業大学商学部観光産業学科 フェロー教授
石井 幸孝	NPO法人 福岡城市民の会 理事長
酒見 俊夫	福岡経済同友会福岡地域委員会 委員長
船津 正明	大濠公園をよくする会 代表世話人
内川 克郎	財務省福岡財務支局 管財部長
井浦 義典	国土交通省九州地方整備局 建政部長
宇都宮 博文	国土交通省九州運輸局 観光部長
高原 稔	福岡県 商工部観光局長
中尾 良教	福岡県 建築都市部長
吉田 法稔	福岡県教育庁 副教育長
高島 収	福岡市 経済観光文化局長
石橋 正信	福岡市 住宅都市局長
池見 雅彦	福岡市 中央区長

目 次

第Ⅰ章 計画の前提	1
1. 背景と目的	1
(1) 背景	1
(2) 目的	2
2. 対象エリア	3
3. 計画期間	4
第Ⅱ章 基本方針	5
1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性	5
(1) 基本理念	5
(2) 基本的な方向性	5
2. 基本方針	6
3. 実現すべき公園像	7
(1) 利用者像	7
(2) 利活用イメージ	7
第Ⅲ章 実施方針	20
1. 利活用イメージの展開	20
(1) ゾーニング	20
(2) 主要な動線	23
(3) 主要な施設	24
(4) 実施方針図	26
第Ⅳ章 管理運営計画	28
1. 基本的な考え方	28
(1) 管理運営の方向性	28
(2) 管理運営主体	28
2. 企画運営	29
(1) イベント・利用プログラム	29
(2) 情報発信	30
3. 共働の公園づくり	31
(1) 市民共働の運営体制づくり	31
(2) 民間活力による財源確保と魅力づくり	34
(3) まちづくりとの連携	35
4. 維持管理	37
(1) みどりの管理	37
(2) 歴史資源の管理	38
(3) 施設管理	38

第Ⅴ章 整備計画 -----39

1. 基本的な考え方 -----	39
2. 周辺地域の整備の方向性 -----	40
(1) 整備の考え方 -----	40
(2) 展開イメージ -----	42
3. 両公園の整備の方向性 -----	43
(1) 整備の考え方 -----	43
(2) エリア整備計画 -----	44
(3) 施設整備計画 -----	53
(3)－1. 園路計画 -----	53
(3)－2. 修景計画 -----	54
(3)－3. 休養施設計画 -----	55
(3)－4. 遊戯施設計画 -----	56
(3)－5. 便益施設計画 -----	57
(3)－6. 管理施設計画 -----	61
(3)－7. サイン計画 -----	62
(3)－8. 災害時における公園の役割 -----	63
4. 全体計画 -----	64

第Ⅵ章 将来像の実現に向けて -----65

1. 事業の進め方 -----	65
(1) 短期（概ね10年間） -----	66
(2) 短期（概ね10年後）以降 -----	66

第 I 章 計画の前提

1. 背景と目的

(1) 背景

①セントラルパーク構想

福岡県の総合公園である大濠公園は、豊かな水辺と美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化の香る空間であり、水辺一帯が近代の国登録の記念物となっています。一方、福岡市の総合公園である舞鶴公園は、古代の国指定の史跡「鴻臚館跡」、近世の国指定の史跡「福岡城跡」などの歴史があり、貴重な自然が残された場所となっています。大濠公園・舞鶴公園は都心部に隣接する貴重なオープンスペースであり、それぞれが多様な魅力を持つ都市公園として、これまで多くの県民・市民に親しまれてきました。

このように隣接する大濠公園と舞鶴公園に対して、福岡県・福岡市の上位計画である総合計画に基づき一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として、歴史・芸術文化・観光の発信拠点として公園そのものが広大なミュージアム空間となり、人々に感動を与えるような公園づくりを目指すため、「セントラルパーク構想」^(※1)を平成26年6月に策定しました。

②セントラルパーク構想策定以降

最近では人口増加や観光客・MICE^(※2)参加者の増加、企業立地の増加などを背景に、様々なまちづくりの取り組みを推進しています。そのような中、両公園は都心の「オアシス」として、周辺との機能連携や回遊性の向上、緑のつながりの強化などへの期待が高まっています。また、歴史を象徴する福岡の「ランドマーク」としての魅力づくりが求められています。

一方、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景とし、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限引き出すため、平成29年には、都市公園法の一部改正による公募設置管理制度（Park-PFI）が新設されました。この制度は、民間施設の収益を公園整備に還元させることを特徴とし、都市公園への民間投資の誘導、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性向上を図ることが期待されています。

今後は、多くの関係者の共働によって、公園の価値を最大化するための公園のマネジメントを進めることが一層求められています。



図：周辺からみた両公園の位置付け

(2) 目的

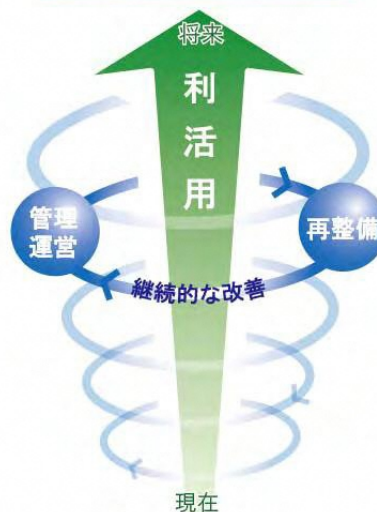
本計画は、「セントラルパーク構想」に基づき、大濠公園と舞鶴公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し、基本理念「時をわたり、人をつなごう ～未来へつながる福岡のシンボルへ～」を実現するための具体的な方策を明らかにするものです。

計画策定にあたっては、両公園の特性に配慮しながら、多様化した公園利用者のニーズに対して柔軟に対応することが必要です。また、市民、企業、行政、NPO などの様々な主体がそれぞれの力を活かした協働の仕組みによって、両公園に関わる諸要素を総合的に活用し、様々な取組みを継続・発展させて、本公園にふさわしい実現すべき公園像を導くことが求められています。

このような考え方に基づいて本計画では、将来の実現すべき公園像に向かって、再整備と管理運営を一体的に捉え、両公園の利活用を継続・発展させていく公園マネジメント^(※3)の視点から、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルを繰り返し、社会の変容に対応して継続的な改善を加え進めることで、両公園の魅力をさらに高め、都市の活性化につながる公園づくりを目指します。

大濠公園・舞鶴公園の魅力向上
都市の活性化

実現すべき公園像



図：セントラルパーク基本計画の概念図

(※1) セントラルパーク構想とは

「セントラルパーク」といえば、ニューヨークのセントラルパークが想起されます。

ニューヨークのセントラルパークは、ニューヨークの都市づくりが始まろうとする 150 年前に、都市の中心に先行的に大規模な公園を整備することによって、公園を中心とした市街地形成を図った計画的な都市づくりのモデルとなっています。

今日では、緑豊かな憩いの空間というだけにとどまらず、都市の文化を物語る上で欠かせないシンボルとして年間 3,500 万人の観光客を引き寄せ、都市の活性化に大きく貢献しています。

「セントラルパーク構想」は、福岡を取り巻く環境が変化し都市の再デザインが求められる今日、大濠公園・舞鶴公園の中心性、シンボル性を活かして、都市のブランド化や県民・市民の参加など、総合的なまちづくりにつながることを目指して平成 26 年 6 月に策定しました。

(※2) MICE とは

MICE とは、Meeting(企業等の会議)、Incentive travel(報奨旅行)、Convention(国際会議等)、Exhibition/Event(展示会・イベント)の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

(※3) 公園マネジメントとは

公園計画の段階から実現すべき公園像を具体的な目標として定めること、その目標を達成するため公園の行政、法体系の仕組みやこれらに関わる組織・人材、環境・資源などを有効に活用するための計画を立て、それを遂行しながら、結果・成果を評価し、必要に応じて計画内容や事業内容を修正・調整するという一連の流れの中から、あるべき公園像を実現すること。

(出典：「公園管理ガイドブック改訂版－公園管理運営のための必携書－」，一般財団法人公園財団，平成 28 年 11 月発行)

2. 対象エリア

本計画は、大濠公園と舞鶴公園を対象とします。

なお、西公園や南公園、天神や大名、六本松などの周辺地域との緑のつながりや機能連携なども考慮する必要があるため、周辺に視野を広げた取り組みも含めて検討します。



図：対象エリア



3. 計画期間

本計画は、構想における中期的な取り組み（構想図）を具体化した全体計画を定めるものとします。この計画の進め方は、公園の拡張や史跡の復元整備を踏まえ、両公園の連続性、利用者の回遊性・快適性の向上、公園の魅力づくりなどを考慮しながら、段階的に整備を行うこととします（参照：第Ⅳ章 将来像の実現に向けて）。なお、短期（概ね10年間）の計画についても本計画において整理します。

第Ⅱ章 基本方針

1. 基本構想における基本理念と基本的な方向性

「セントラルパーク構想」では、基本理念と基本的な方向性が以下の通り掲げられています。

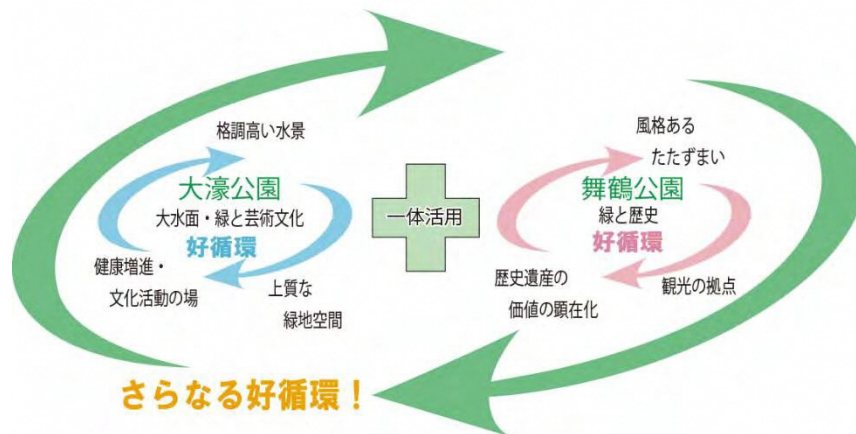
(1) 基本理念

福岡を代表する特性を有する二つの公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し、

時をわたり、人をつなごう。
～未来へつながる福岡のシンボルへ～

を基本理念として掲げます。

大濠公園と舞鶴公園が持つ特性を磨き上げるとともに、二つの公園の一体的な活用を図ることとでさらなる好循環を生み出し、都市の活性化につなげていきます。



(2) 基本的な方向性

本計画に求められている課題を解決し、福岡の都市の個性と文化を物語る場所となるよう、基本的な方向性を次のように設定します。

- 大濠公園・舞鶴公園一帯の**空間をつなぎ**、一体感のある緑地空間づくり
- 福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の**時をたどる**空間づくり
- 観光集客機能の向上による**にぎわいをつくり**、都市の活性化につなげる拠点づくり
- 「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、**みんなで育てる**公園づくり

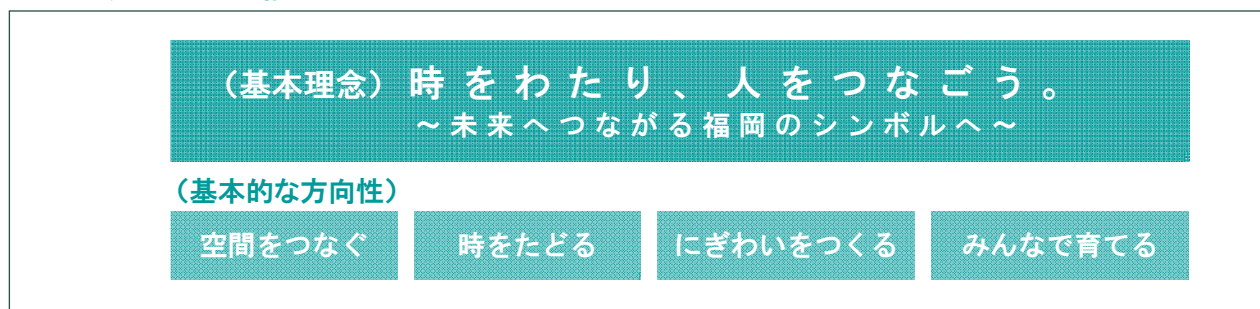
2. 基本方針

大濠公園と舞鶴公園には、みどり、歴史、芸術文化の魅力あふれる資源があります。また、周辺ではビルの建て替え等、開発が進んでおり、人口・観光客数ともに増加している状況から両公園の利活用に対する期待感も高まっています。

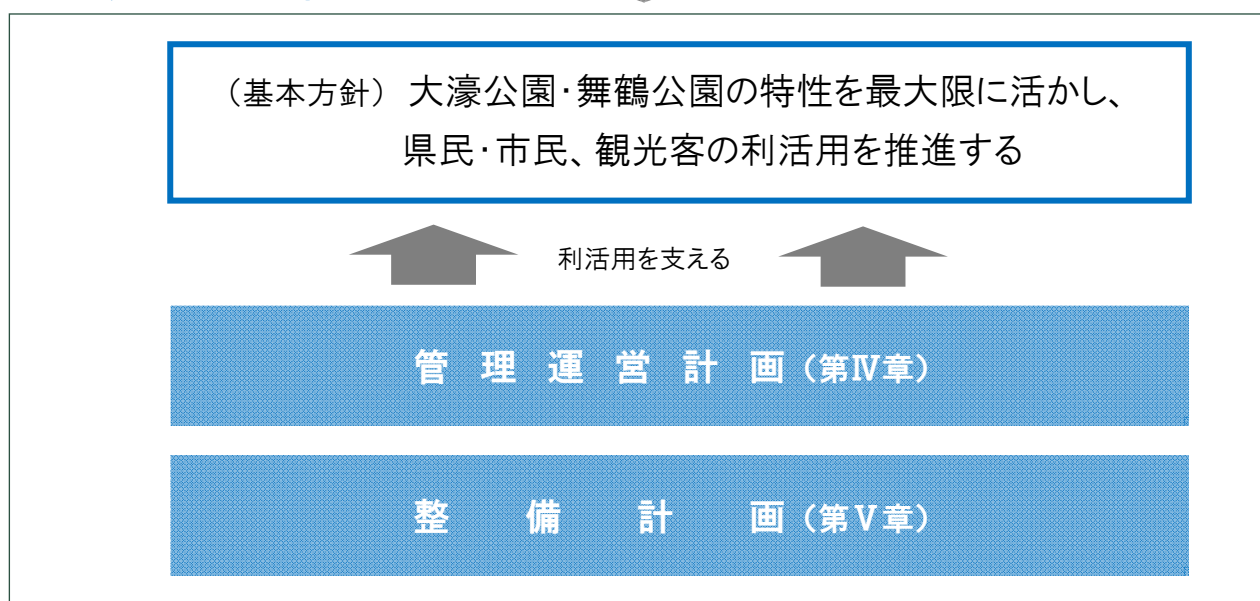
セントラルパーク構想策定以降両公園では、イベントをはじめとする四季の魅力づくりや賑わいづくりなどを試行的に取り組んできました。その結果、両公園の認知度の向上や来園者の増加がみられ、公園の魅力向上や都市の活性化には、利活用の推進が不可欠であることが認識できました。

本計画では、セントラルパーク構想における基本理念と基本的な方向性に基づき、両公園の魅力あふれる特性を最大限に活用することで、県民・市民・観光客による様々な利活用の推進を第一に捉え、公園マネジメントによって、管理運営計画、整備計画を定め、将来にわたって継続的に両公園の魅力を高めていきます。

セントラルパーク構想



セントラルパーク基本計画



図：計画の構成

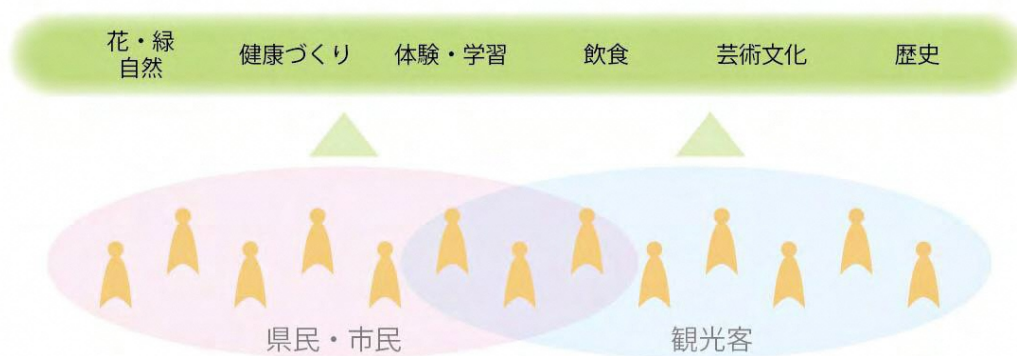
3. 実現すべき公園像

(1) 利用者像

本計画では、両公園の持つ特性を最大限活用し、一年を通してにぎわいが感じられる公園としていくため、県民・市民と観光客という大きく二つの利用者像を設定します。

県民・市民に対しては、憩いの空間としての拠点化を目指し、都心部のオアシスとして貴重なみどりやオープンスペースなどの活用を推進します。

観光客に対しては、集客・観光の拠点化を目指し、福岡の「ランドマーク」として歴史や芸術文化などの活用を推進します。



図：利用者ニーズの想定イメージ

(2) 利活用イメージ

構想で定めた基本的方向性を具体化した 12 の利活用イメージを示し、様々な利用者のニーズに応じた公園の利活用を実現していきます。

また、具体的な管理運営や整備を行っていく上での指針とします。



図：利活用イメージの視点

利活用イメージ① 利用者に愛される公園

■利用者： 公園の近くに住む親子

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 思えば、物心ついたときからセントラルパークは私の遊び場だった。祖父の散歩についてきては、日が暮れるまで園内を走りまわっていた記憶がある。
- ・ そして夕暮れ時に、二人でベンチに腰掛け、水辺を見ながら**様々な野鳥**の名前を教えてもらったり、**植物や虫**の名前を教えてもらったりしたものだった。
- ・ あれから私は父となり、小さな2人の子どもを連れて、相変わらずこの場所に通っている。
- ・ 今子どもたちと一緒に座っている**ベンチは、昔祖父とよく座った場所に、子どもが生まれた年に寄付した**ものだ。ベンチには子どもの生年月日を刻印してもらっている。将来孫が生まれたら、自分と子どもと孫と一緒に座りたい。
- ・ この公園は子供からお年寄りまで誰にでも快適に利用できるようデザインが工夫されているため、私はずっと通い続けるだろう。
- ・ 祖父はセントラルパークが私たちにとって**憩いの場**になっているだけでなく、**災害時の避難場所**になっていることも教えてくれた。今は私が子どもたちに、災害があったときにはここに逃げるように、と教えている。
- ・ 私が祖父にそうしてもらったように、子どもたちにとって、ここが大人になっても大切な場所であるように、たくさんの思い出をつくってあげたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 公園に対する愛着を醸成する仕組み
- ・ 利用者が寄付などによって公園運営に貢献できる仕組み
- ・ ユニバーサルデザインの推進
- ・ 広域避難場所としての周知や機能確保

利活用イメージ② 休日を過ごしたくなる憩いの場

■利用者： 車でピクニックに訪れた家族連れ

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 連休を利用して、愛犬を連れ、家族4人セントラルパークにピクニックにやってきた。
- ・ 車で公園に近づくにつれて、**道沿いの緑が増え、店舗は統一感のあるおしゃれな外観**で揃えられている。さらに進むと、豊かな緑や史跡の風景が見え、その脇に公園の入口が見えてきた。
- ・ 入口に近づくと、駐車場への誘導サインがすぐに目に入った。満車で入庫待ちを予想していたが、スムーズに停めることができた。**十分な駐車スペース**は、小さな子どもがいて荷物が多い家族にはとてもありがたい。
- ・ 車を降りると、**花や緑で彩られた園路**が続いており、花壇では**ボランティア**と思われる人たちが楽しそうに手入れをしている。花が大好きな娘は一緒に花を植えてみたいようだ。園路もランナーや自転車に気を使わず散歩することができ、愛犬も満足そうだ。
- ・ 以前は住宅が建っていたという**広場**に着くと、連休とあって**多くの人でにぎわっている**。読書をする女性、走りまわっている子どもたち、楽器の練習をしている学生と、みな思い思いの時間を過ごしている。
- ・ 私たちもさっそく美しく管理された芝生の上で**お弁当を広げ、大濠公園の水面や福岡城の石垣の風景を楽しみながら食事をする**ことにした。豊かな自然の中で、歴史の雰囲気を感じながらのんびりしていると、福岡の都心にいるということを忘れてしまいそうになった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺地域と連携した緑化推進
- ・ 街並みや建物の低層部の用途誘導
- ・ 車両にもわかりやすいエントランスの整備
- ・ 適切な駐車台数の確保
- ・ 季節感を楽しむことができる花々の演出
- ・ 施設移転跡地の広場活用
- ・ 石垣や水面への見通しの確保
- ・ みどりや芝生の適切な管理

利活用イメージ③ ボランティアの舞台

■利用者： ボランティア

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・今日は花壇の植え替えを行うためにセントラルパークにやってきた。私は**ボランティア組織**「(仮称) セントラルパークを育てる会」のメンバーとして、活動している。
- ・以前からそれぞれボランティアが組織されていたが、数年前に**二つの公園が一貫した管理運営**が行われるようになったことをきっかけに、**ボランティアも一つの組織として統一**されることとなった。
- ・もちろん、それぞれのボランティア活動は継続されつつ、今日の花壇の手入れのように、**両公園で一貫した活動**も行われるようになった。おかげで、花壇などは景観的にも統一感があるように感じられ、来園者も季節ごとの変化を楽しんでもらっているようだ。
- ・公園管理者や公園内施設関係者、ボランティアなどの**連絡体制も整理**されたため、**色々な組織と連携した活動**も充実している。
- ・また、私たち**ボランティアの活動拠点**も公園内にできたので、着替えや活動の準備だけでなく、日常的な連絡事項の確認や情報共有もスムーズにできるようになった。
- ・施設の整備や共通の活動のおかげで、ボランティア同士の**交流**も増え、最近では組織としての一体感も出てきたように感じる。
- ・これからも活動を通して、ボランティア同士の交流を深めながら、セントラルパークの環境を育んでいきたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・両公園で連携した管理運営体制の確立
- ・両公園の様々な関係者間での連絡体制の整理
- ・ボランティア活動の拠点となる施設の整備
- ・組織間での連携が行いやすい環境づくり

利活用イメージ④ 都心部の生き物の大きな家

■利用者： 周辺の小学校教員

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・セントラルパークは都心部の中で豊かな水と緑があるため、**様々な生物と触れ合うことができる貴重な場所**だ。
- ・そのため、**総合学習**の一環として周辺の学校の多くがセントラルパークに訪れている。
- ・私が勤めている学校でも毎年訪れており、生徒達も恒例の授業として楽しみにしている。
- ・最近、管理運営の一環として、**生物多様性の保全と来園者が自然とふれあえる環境づくり**が盛んに行われるようになってから、鳥の増加や多様な植生が見られるようになっていく。また、生物の専門家のボランティアガイドの方々が生徒達に様々な生物の生態などについて教えてくれるプログラムも設けられている。
- ・生徒達に特に人気があるのは**水辺を活用**した観察プログラムだ。都心部では珍しく**安全に水辺に近づく**ことができ、普段は間近で見ることができない動物や植物を観察することができるため、生徒達は目を輝かせて参加している。
- ・他にも、**季節の植物**を楽しむ観察プログラムや珍しい植物、大木・古木などの植物に関わるプログラムも豊富にあり、プログラムごとに様々な自然の魅力を伝えてくれる。
- ・セントラルパークが都心部で自然にふれあえる貴重な場所であり続け、その魅力を維持・向上して行くことが子ども達の成長につながると考えると、公園や周囲の環境保全に貢献していきたいと感じる。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ボランティアガイドが活動しやすい環境づくり
- ・生物の生育環境の保存と向上
- ・公園の特性や参加者のニーズに合わせた利用プログラムの増加
- ・水辺を活用したイベントやプログラムの増加

利活用イメージ⑤ ジョギングの聖地

■利用者： 仕事帰りのジョガー

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 19 時。いつものように、スーツからランニングウェアに着替え、コースに出る。運動不足解消のため、**仕事終わりにセントラルパークをジョギング**したのが始まりだった。
- ・ 公園内には**ランニングステーション**があり、ロッカーはもちろんシャワーも完備してあるので、仕事終わりにスーツ姿で直行できるのがとてもいい。
- ・ 大濠公園は以前からジョギングやウォーキングをする人が多かったが、**舞鶴公園も含めたコース**が作られてから、さらに利用する人が増えた。コースが広がったことで、**緑の風景、水辺の風景、歴史の風景**と様々な風景を楽しむことができ、飽きずに気分良く走れることが理由の一つだろう。
- ・ もう一つの理由は**安心して走れる**ということだ。ここは、歩行者、ジョギング、ペット、自転車と様々な人が利用しているが、舗装や路面表示など**利用者に応じたコース作り**が徹底されていて、結果的に**マナーも守られている**というわけである。また、園内は**ライトアップ**もされていて、**女性や高齢者も安心して**利用できるため、夜間の利用者も多い。
- ・ さらに、ジョガーの間で人気に火をつけたのが、**周辺にあるスポーツショップ**である。お洒落で機能的なウェアやアイテムを身に着け、この場所で体を動かすということが**ブランド化**してきている。
- ・ 最近では、体力もついてきたため、**休日には西公園や南公園方面まで走る**ようになった。西公園や南公園までをつなぐ通りは歩きやすく、緑にあふれ、**立ち並ぶ店舗も公園の雰囲気**に合ったお店が多くなった。
- ・ 自分自身の健康のために始めたことが、今やセントラルパークのブランドを形作っていると思うと、今後もさらに気分よく走れそうだ。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ ランニングステーションなどの便益施設の設置
- ・ 舞鶴公園のジョギングコースの設置、動線の一体化
- ・ 利用者ニーズと安全性に配慮したコース設定
- ・ 公園周辺の施設との連携
- ・ 公園のブランド化
- ・ 周辺との緑のつながりの確保

利活用イメージ⑥ 古代より連なる福岡の歴史舞台

■利用者： 歴史好きの来訪者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・月に一度の妻とのまちあるきは、福岡の歴史を巡る旅がテーマである。
- ・今までに太宰府市の古代の史跡と、朝倉市の秋月城下町を巡った。今日は**博多や天神の黒田家ゆかりのコース**を歩き、**福岡の歴史のシンボルである鴻臚館跡と福岡城跡**に向かう。
- ・西公園から眺める福岡の街並みは、水と緑であふれており、セントラルパークへは**歩いていく**ことにした。
- ・セントラルパークまでやってくると、**ガイダンス施設**があったので、まずは概要を知ることにした。施設内の展示物や地図には、**鴻臚館跡と福岡城跡それぞれの歴史や、周辺の関連史跡との歴史的なつながり**がわかりやすく解説されている。古代には鴻臚館と大宰府を結んでいた官道があったと知り、その時代の姿に思いを馳せた。**黒田家とその分家が拠点としていた福岡城と秋月城**の関係も興味深い。
- ・私たちはガイダンス施設で**ボランティアガイドの人に案内**を頼むことにして、**複数あるプログラム**の中から、目的に合った、鴻臚館跡・福岡城跡双方の歴史を学べるものを選んだ。
- ・ガイドの人の説明を聞きながら、鴻臚館跡の復元整備や福岡城跡の石垣などのポイントを見ていくと、この地にある**歴史の重層性**が分かり改めて福岡という地の面白さを感じた。
- ・歴史好きの友人との話の種になるだろうと**お土産も購入**した。
- ・一通り見て回ったあと、**園内の休憩所**で昼食をとることにした。休憩所では**鴻臚館跡と福岡城跡の両方を見ながら食事**をすることができ、私は当時の人々の様子に思いを馳せながら、妻はおいしい食事に感動しながら、互いに満足した時間となった。
- ・ガーデニングが好きな妻は、公園内の樹木がよく手入れされていることにも感心していた。私たちが各施設に支払った料金で手入れの行き届いた環境が保たれているそうだ。
- ・福岡の都心部でまちづくりが進み、にぎわいが増えるなかで、セントラルパークは**都心のオアシス**として、多くの人が憩い、**地域の誇り**として大切に利用されている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・周辺の歴史資源との連携
- ・シンボルとしての遺構の復元
- ・ガイダンス施設の設置
- ・櫓や石垣などの見所の魅力向上
- ・歴史の重要性を感じる復元整備
- ・公園周辺から連続的に散策、回遊できる空間形成
- ・利用プログラムの充実

利活用イメージ⑦ アート巡りの拠点

■利用者： 県外からアート作品巡りに訪れた人

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・日本の芸術や文化に興味があり、美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設が集まっていることで有名なセントラルパークに、休みを利用して一人訪れた。
- ・福岡空港や博多駅などの交通拠点から、地下鉄一本で最寄駅まで行くこともできるが、今回は天神駅で降りて、ショッピングを楽しみながら歩いて向かうことにした。
- ・天神駅から公園に向かう途中にはギャラリーやセレクトショップが多く、セントラルパークを中心として**まち全体からアートの雰囲気**を感じる。公園に近づいてくると**緑豊かな景色**が広がり、**公園内を巡りたくなる**気持ちが高まる。
- ・私の場合、各施設の情報や見所について、英語のホームページで事前に調べていたので特に不安はなかったが、園内には総合案内板をはじめ、**随所に丁寧な案内**がなされているので、初めてきた人も安心するだろう。
- ・公園の総合管理事務所で受け取った、**芸術文化をテーマとするパンフレット**を見ると、そこに書かれた**コース**に沿っていけば、様々なアートに出会えるようになっている。
- ・日本庭園に入って、庭を眺めながら抹茶と和菓子をいただき、日本文化について考えるいい機会となった。
- ・また、**園路沿いの小さな広場**では、大道芸や楽器演奏などの**小規模なアートイベント**が行われており、公園に遊びに来ていた**子どもたちは**、食い入るように眺めている。小さな頃から**身近でアートに触れ合える環境**があるのは素晴らしいことだと思う。
- ・セントラルパークを**楽しんだ後は**、バスで**福岡市博物館に行く**予定だったけれど、公園の中にいるような福岡の街の景色を楽しみながら引き続き歩くことにしよう。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・芸術文化に関わる施設の強化
- ・公共交通からのアクセス向上
- ・エントランス部の魅力の向上
- ・テーマごとの散策コース設定
- ・日本庭園の認知度向上
- ・小規模イベントが行える広場の確保
- ・情報発信の強化
- ・公園内のわかりやすい情報案内
- ・合同管理事務所の設置
- ・芸術文化施設の広域的な連携の強化

利活用イメージ⑧ アジアを代表する観光地

■利用者： 海外からの観光客

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・ 夏休みの家族旅行で福岡を訪れている。前にも一度、団体ツアーで訪れたことがあるが、**自然も文化も豊かな福岡の街**が忘れられず、今回は家族だけで再訪問することにした。
- ・ 天神からバスに乗りセントラルパークに着いた。前に訪れた時は、**大型バス用の広い駐車場**から公園に入ったが、今回はまち歩きを楽しみながら歩いて公園に訪れた。公園内は**水と緑が豊か**で美しく、**構造物のデザインにも統一感**があって、福岡の人がこの両公園を愛していることが、デザインからも見てとれる。
- ・ 公園内の**サインが多言語で書かれていたり、多言語表記に対応したデジタルサイネージ**が設置され、私たちのような海外からの観光客にもわかりやすいのがあるがたい。
- ・ 公園の見所の一つである**鴻臚館跡**では、遠い昔に大陸から訪れた客人が、ここでどのように迎え入れられたか、歴史をたどることができる。語学だけでなく歴史にも通じた**通訳ガイド**に案内を頼むこともでき、この場所の歴史だけでなく、母国との関わりまで深く理解することができた。各ポイントには**絵や図、VR・ARなどのデジタル技術を用いた解説が設置され、古代の風景をイメージしながら現在の風景と比較**すると、アジアの先進都市である福岡の歴史の深さを感じた。
- ・ 着物体験や乗馬体験、多聞櫓でのワークショップなど、**歴史的な風情を体感できるソフトプログラム**も豊富にあり、一日滞在することができそうだ。
- ・ 園内では**Wi-fi**が整備されているのはもちろん、ビューポイントには史跡に配慮してカメラ台が置かれていて、リアルタイムで母国にいる知り合いにその様子を楽しんでいる自分の姿を伝えることができた。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 外国人観光客の誘致と利便性の向上
- ・ 施設利用料金の徴収
- ・ 大型バス駐車場の確保
- ・ 飲食、物販などの便益施設の検討
- ・ 構造物のデザインの統一
- ・ 鴻臚館跡の交流空間としての機能復元
- ・ 多言語表記やピクトグラム等による外国人観光客への情報提供
- ・ 当時の様子を彷彿とさせる解説サインの設置

利活用イメージ⑨ 福岡でのイベントならセントラルパーク

■利用者： イベント企画者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・近年、**福岡で大規模イベント**を開催するならセントラルパークで、というのが企画・運営関係者の間で通例になっている。
- ・その理由は、立地も良く**イベントしやすい環境**が整っていることにある。福岡の都心で大規模イベントできるスペースが増えたことに加え、交通拠点からアクセスしやすく、さらに**跡地を利用した広場**で、自然や歴史の雰囲気に触れながら、にぎわいイベントを楽しめるとあって、イベント参加者からの評価が高いからだ。
- ・最近では、**天神や博多エリア、護国神社**で行われていた**既存のイベントと連携**する機会が増えており、新しく生まれ変わった**六本松エリア**とは、特に連携する機会が多くなった。
- ・フリーペーパーや雑誌などの**メディアを活用した頻度の高い広報**や、**イベント企画者と公園管理者の協働**により、**受入れ人数の増加**や**新たなターゲットの確保**、**プログラムの充実**が図られ、経済効果も大きくなっていると、他県からの問い合わせも増えている。
- ・これらの協働の積み重ねによってセントラルパークの**知名度**も上がり、今では観光・集客資源として、福岡の活性化の一翼を担っている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・交通拠点からのアクセス向上
- ・様々なイベントに対応できる広場空間の整備
- ・イベントをしやすい仕組みづくり
- ・イベント企画者と公園管理者の連携
- ・周辺地域との連携

利活用イメージ⑩ 市民・企業連携のステージ

■利用者： 周辺のヨガスタジオ経営者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

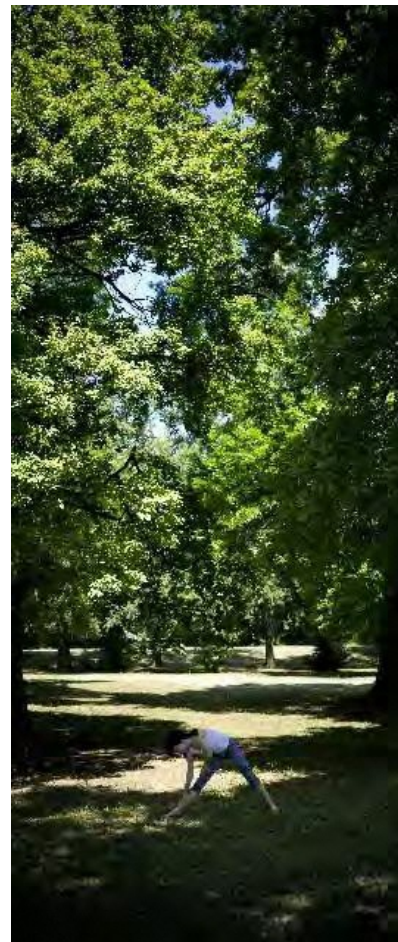
空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・私はセントラルパークの周辺でヨガスタジオを経営している。経営を始めた頃はマンションの1室を使用した小さなスタジオだったが、今ではビルの1フロアの広さになりヨガウェアなどを扱うショップも併設した、福岡でも有数の大きなスタジオになった。
- ・スタジオの生徒数が増えたのは、セントラルパークがきれいになって、大手門側からも**アクセスしやすくなり**、公園への人の流れが増えたからだと思う。
- ・スポーツショップやジョギングステーションなど、**公園の機能と一体となった店舗が公園周辺部で増加**しているのも同じ理由だろう。
- ・何年か前から、**公園内で野外レッスン**も行うようになり、広い緑の芝生のうえで行うヨガはとても気持ちがいいと、特に若い女性に人気だ。
- ・生徒以外でも公園内でヨガをする人たちが、ウェアやマットを買いにくるので、ショップもにぎわっている。
- ・という訳で、セントラルパークにはとても魅力を感じているため、数年前から**公園に寄付**をし始めた。寄付金の一部が、私たちがヨガを行っている**広場の管理**に使われていると思うと、**寄付のしがいがある**。
- ・ショップカードや私の名刺には、寄付をした特典として、**セントラルパークのロゴ**が入っているので、初めて会う人との話の種になって助かることもしばしばある。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・公園の魅力を活用した周辺企業との関わり強化
- ・利用者が活動しやすい芝生広場の確保
- ・市民や周辺企業と連携したイベントの実施
- ・企業からの寄付などを初めとした公園運営の仕組みづくり

利活用イメージ⑪ 魅力づくりに貢献したくなる公園

■利用者： 周辺の土地所有者

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

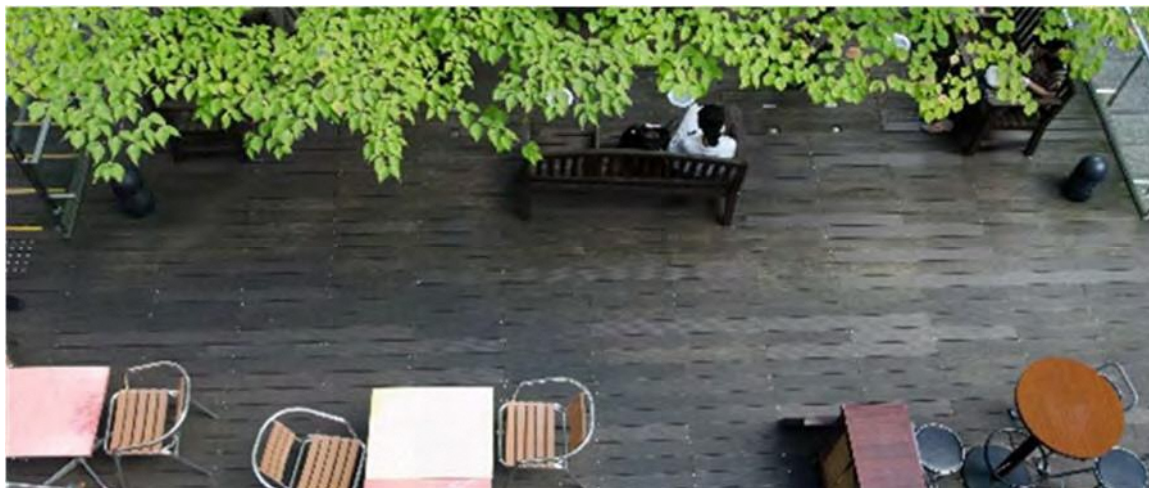
県民・市民

観光客

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・お堀沿いの道を歩くと、いつも公園に**立ち寄りたいという気持ちになる**。光を反射した水面に木々が影を写し、夏には蓮の花が咲き、訪れた人の**撮影スポット**となっている。
- ・私がオーナーであるセントラルパーク沿いのビルには、テナントとしてカフェが入っている。カフェにはテラス席があり、**水や緑、史跡の雰囲気を感じながら食事を楽しめる**ため、テラス席を予約するお客さんが多い。
- ・このように、**明治通りに並ぶ店舗やオフィス、周辺の住宅地などは、立地をうまく活用した建物が多い**。大きな公園に近く、窓から水と緑の風景を楽しむことができる環境は、商業施設はもちろんオフィスや住宅の環境としても魅力的だ。
- ・セントラルパークには**ファンドレーザー**という寄付金を回収する専門家の存在があり、私のような土地所有者や企業、個人などが寄付を積極的に行っている。
- ・私は**手入れの行き届いた美しい公園**の景色を眺めると、寄付金が適切に使われているといつも実感する。**セントラルパークが魅力的であるほど私が持っているビルも含めた周辺の地価が上がり**、ひいては**福岡のまちの活性化**に貢献していることを考えると、寄付は投資のような側面も持っている。
- ・寄付の金額によって、セントラルパークの定期通信やイベントへの特別招待、オリジナルグッズの限定販売など、**様々な特典**を受けられるのも寄付のしがいがある。
- ・これからも、周辺に住まう私たちにとっても、ゆとりのある環境であり続けてほしい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・沿道から魅力を感じられる空間づくり
- ・公園の魅力の波及範囲の拡大
- ・水辺の魅力の向上
- ・寄付をはじめとした公園運営に関わる専門家の配置
- ・公園及び周辺の資産価値の向上

利活用イメージ⑫ 福岡のランドマーク「セントラルパーク」

■利用者： 国際会議の出席者

県民・市民

観光客

■基本的な方向性との対応

空間をつなぐ

時をたどる

にぎわいをつくる

みんなで育てる

- ・国際会議のレセプションとして、福岡のセントラルパークを訪れた。
- ・天神や博多のまちづくりが活発に進む中、**広大な緑や水辺**を持つセントラルパークは、**都心のオアシス**として多くの県民・市民に利用されているという。
- ・この公園は、県民・市民・観光客の様々なアクティビティに対応するため、**四季を通じた多彩なイベントや歴史を活かしたプログラム**が充実しているようだ。
- ・なかでも、古代から現代につながる**福岡の歴史の重層性を体感する**ツアーでは、鴻臚館跡の全体像や福岡城跡の長大な石垣、大濠公園の大水面などの**各時代を象徴する視点場**を案内してもらった。特に、かつて福岡城の城堀であった「大堀」を舞鶴公園から見たときは、両公園の深いつながりを感じた。
- ・レセプションは、**古くから迎賓の場であった鴻臚館跡**にある鴻臚館跡展示館周辺を会場とし、福岡ならではのおもてなしを受け、参加者同士の交流も深まった。
- ・**両公園の特性を最大限活かしたプログラムとそれを支える空間づくり**の裏には、**様々な関係者が共働した公園マネジメント**があり、まさに、県民・市民の愛着と誇り、公園利用者の増加につながっている秘訣だろう。
- ・帰りのバスの中から見た、**ライトアップされた石垣や櫓**の存在は、発展を続ける都市・福岡の中で印象的であった。世界中から人々が集まる歴史・文化・観光の拠点となっているセントラルパークこそ、**福岡のランドマーク**にふさわしい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・城郭として両公園の一体性が感じられる石垣や土塁の顕在化
- ・歴史を体感するソフトプログラムの充実
- ・デジタル技術を活用した解説の充実
- ・沿道からも魅力が感じられる空間づくり
- ・歴史資源の観光・まちづくりへの活用

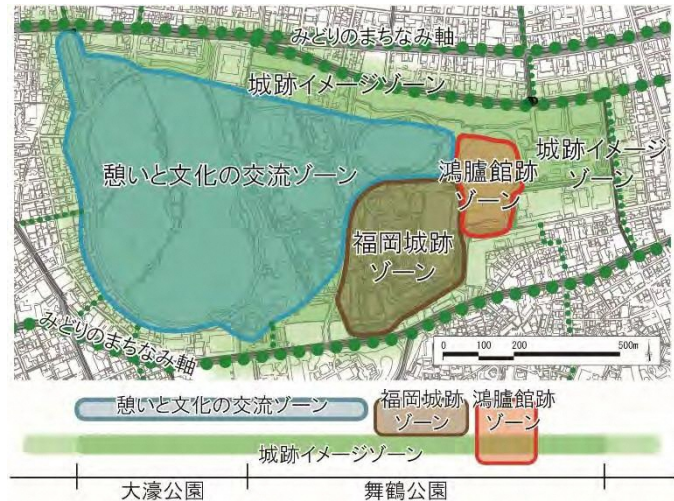
第Ⅲ章 実施方針

1. 利活用イメージの展開

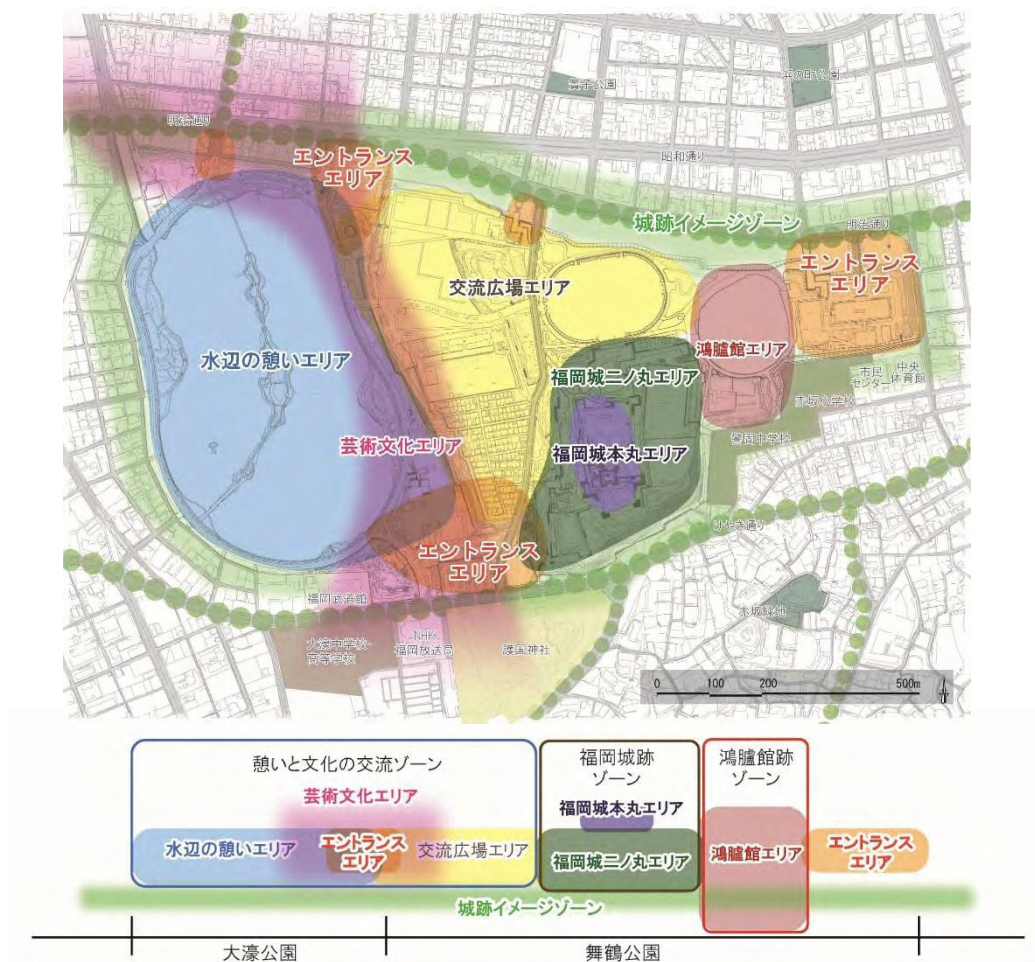
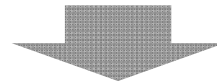
※1 資料編 P115～124 参照

(1) ゾーニング

周辺地域との関係性や両公園における課題（※1）及びセントラルパーク構想における基本的な方向性、利活用の考え方を踏まえてセントラルパーク構想で示したゾーニングを細分化し、セントラルパーク基本計画のゾーニングとします。



図：セントラルパーク構想 ゾーニング図

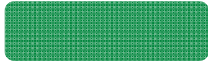


図：セントラルパーク基本計画 ゾーニング図

各エリアの利活用の考え方と、各エリアに関連性が高い利活用イメージを以下に示します。

表：各エリアに対応する利活用の考え方

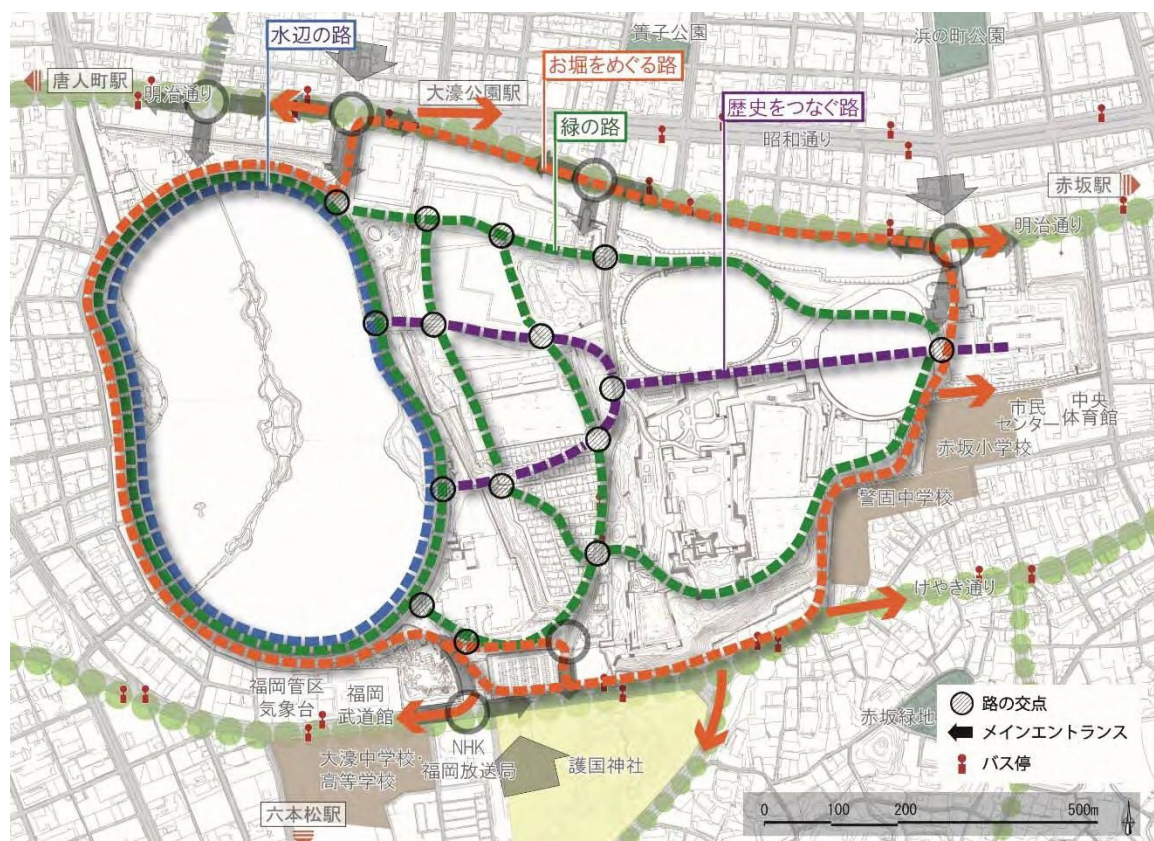
ゾーン・エリア		利活用の考え方
城跡イメージゾーン	水辺の憩いエリア  <関連性が高い利活用イメージ> ②休日を通りかかるとなる憩いの場 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地	大濠公園の水面とその周回園路を中心とした範囲を「水辺の憩いエリア」とします。 通行レーンの明確化やマナーアップを図ることで、都心での貴重な水辺を感じながら歩行者やジョギング利用者、自転車利用者、ペットの散歩など、様々な利用者がより快適で安心して利用できるようにします。休憩施設や水辺に親しみやすい場所を設け、水景を眺めながら子ども達が安全に安心して遊び、また、水辺の野鳥など自然との触れ合いを通じて、来園者の交流を促進します。
	芸術文化エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ⑤ジョギングの聖地 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地	福岡市美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設、それらをつなぐ空間、周辺地域への広がりを含めて「芸術文化エリア」とします。 福岡の芸術文化施設が連携し相乗効果を高め、福岡の芸術文化発信のための核となるエリアとして位置付けます。 拠点となる施設へのアプローチの向上や施設間の回遊性の向上に加え、芸術文化の雰囲気が現在の施設内のみにとどまらず、パブリックアートやアートイベントなどを介して公園全体やNHK福岡放送局などの周辺施設をはじめ、都市全体への広がりへとつなげていきます。県民・市民の芸術文化への関心と活動を育み、芸術文化分野を中心とした観光の拠点化を図ります。
	交流広場エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ②休日を通りかかるとなる憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ	舞鶴中学校跡地や城内住宅などの非史跡施設の移転跡地と舞鶴公園三ノ丸広場を中心とした範囲を「交流広場エリア」とします。 全てのエリアに接し、既存の広場に移転跡地を加えた都心部最大の広場となり、イベントや様々な利用プログラムなどの充実などにより閑散期を含めて通年来園者が憩い集う交流を育む場所とします。各エリアの接点にあたる場所は優先的に見通しをよくし、大濠公園と舞鶴公園の物理的・視覚的な連続性をもたせることで、一体的な賑わいを育みます。 また、舞鶴公園のボタン・シャクヤク園やフジ棚、ショウブ園などの季節感を感じるみどりを積極的に活用します。
	鴻臚館エリア  <関連性が高い利活用イメージ> ⑤ジョギングの聖地 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	鴻臚館跡の史跡指定範囲を「鴻臚館エリア」とします。 国史跡鴻臚館跡整備基本計画（策定中）との整合を図り、発掘調査、資料の収集に努めるとともに、復元整備を行うことで、鴻臚館の時代に思いをはせることができる古代の歴史文化の学習の場、迎賓の場としての活用を図ります。 施設の復元までの期間は芝生広場として利用し、段階的に明らかになっていく福岡の歴史の深さを、来園者と共有していきます。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。

城跡イメージゾーン	福岡城跡ゾーン	福岡城本丸エリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城本丸の範囲を「福岡城本丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画と整合を図り、一義的に歴史的建造物などを保存するとともに、福岡城跡の最大の見所として、史跡を活用した利用メニューの充実を図ります。積極的な復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景による城跡の雰囲気演出を図り、来園者が福岡城跡の歴史を感じ、学ぶことができる空間とします。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向け、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。 当面は、歴史的な雰囲気の中でサクラを楽しむことができる場としての活用を図ります。
		福岡城二ノ丸エリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑧アジアを代表する観光地 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城二ノ丸の範囲を「福岡城二ノ丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画との整合を図り、歴史的建造物や庭園などの復元整備や既存建造物の配置の是正、石垣の保存・修景に努め、来訪者が城らしさを感じられる城郭としての景観保全を重視します。 また、二ノ丸への入口部は公園の園路と適切に連続させるとともに、二ノ丸のエントランスとしての魅力向上を図り、来園者をエリア内に誘導するような雰囲気づくりを行います。
		エントランスエリア  ＜関連性が高い活用イメージ＞ ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑩企業連携のステージ	明治通りと国体道路からの主要な入口とその周辺に加え、天神側からの玄関口となる福岡高等裁判所跡地周辺を「エントランスエリア」とします。 外部からも公園の雰囲気が感じられ、公園の入り口として魅力的でわかりやすい空間を目指し、来園する観光客や県民・市民の期待感を向上させます。 また、来園者への案内機能や公園と地域の魅力を伝えるガイダンス機能などを備えた施設の導入を図り、両公園一体となった情報提供を行うことで、外国人観光客も含めた多様な来園者が、安心してわかりやすく利用できるようにします。 さらに、都心部に近い貴重なオープンスペースとして、災害時の避難場所や避難路などの防災機能の強化を図り、来園者や県民・市民に対する安心・安全を確保します。
		城跡イメージゾーン ＜関連性が高い活用イメージ＞ ①利用者に愛される公園 ②休日を過ごしたくなる憩いの場 ③ボランティアの舞台 ④都心部の生き物の大きな家 ⑤ジョギングの聖地 ⑥古代より連なる福岡の歴史舞台 ⑦アート巡りの拠点 ⑧アジアを代表する観光地 ⑨福岡でのイベントならセントラルパーク ⑩企業連携のステージ ⑪魅力づくりに貢献したくなる公園 ⑫福岡のランドマーク セントラルパーク	福岡城跡は堀の部分も含めると両公園を合わせた範囲以上に広がっていたことから、両公園全体及び周辺を「城跡イメージゾーン」とします。 周辺からのアプローチやエントランスとしての機能を高めるとともに、都市景観上も重要である沿道や周辺から城跡のイメージを感じられる場所については、門や堀等の復元整備や土塁上の樹林の保全・密度管理など「お城」が感じられる空間づくりを行います。 また、福岡の歴史の重層性が感じられる空間づくりを行い、ゾーンが一体となって来園者に福岡というまちが持つ深い歴史の魅力を伝えるものとします。

(2) 主要な動線

資料編 P132~135,167~168 参照

緑や水辺などの自然や歴史、芸術文化など、様々な魅力を持った大濠公園と舞鶴公園の空間をつなぎ、一体的な活用を促すための主要な動線を示します。



図：主要動線図

水辺の路

水景を楽しみながら大濠公園の池沿いを周回し、公園の魅力を感じながら福岡市美術館、能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設を巡ることができます。

緑の路

福岡城跡の土塁上に分布する豊かな緑のボリュームを感じ、散策やジョギングなどを通じて、季節により表情が変化する様子を一年中楽しみながら大濠公園・舞鶴公園内を周回することができます。

歴史をつなぐ路

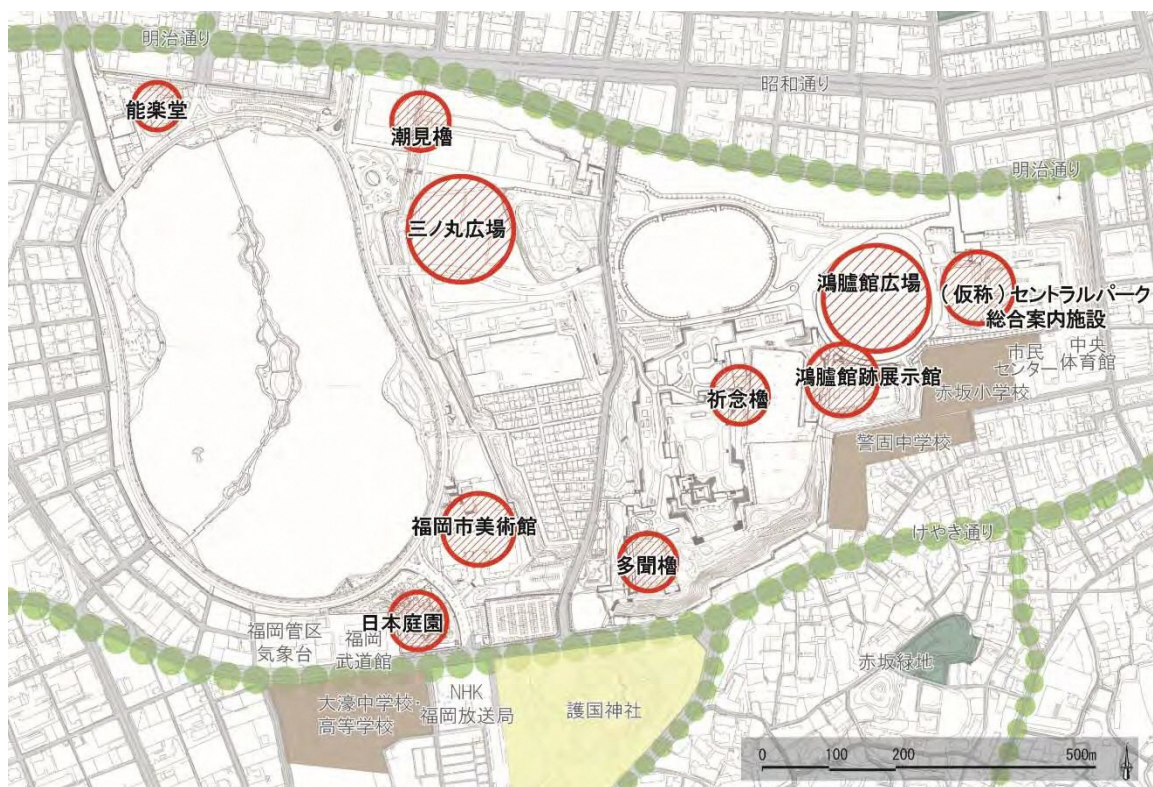
古代の史跡「鴻臚館跡」、近世の史跡「福岡城跡」、近代の記念物「大濠公園」をつなぎ、来園者が福岡の歴史の重層性を学び、福岡のまちの魅力を知ることができます。

お堀をめぐる路

大濠公園と舞鶴公園を大きくつなぎ、大濠公園の水面や舞鶴公園のお堀など福岡城のお堀をめぐることができます。両公園や隣接する街並みなどの沢山の魅力に触れることができ、公園内から周辺への回遊へとつなげます。

(3) 主要な施設

大濠公園・舞鶴公園における主要な施設の考え方は以下の通りとします。なお、各施設間での共通チケットの導入や共同イベントの開催など連携の強化を図ります。



図：主要施設図

①総合案内施設

(仮称)セントラルパーク総合案内施設(新設)

天神側からの玄関口となる高等裁判所跡地には、今後の発掘調査の結果を踏まえて遺構に影響の無い場所に、県民・市民が重層的な歴史資源を理解できる機能を有し、両公園全体を総合的に案内する施設を新たに設置します。

②芸術文化施設

福岡市美術館

展示・収蔵機能の向上やユニバーサルデザインへの対応、大濠公園側のアプローチ、カフェの新設などによるリニューアルを契機として情報発信機能を強化し、内外からの観光客を含めた多くの人々が訪れにぎわいや交流が生まれる施設とします。また、新たなアプローチによる美術館と大濠公園の空間的なつながりを活かしながら、文化芸術に関するイベントなどを通して大濠公園や他の施設と連携することにより、多くの県民・市民が、気軽に文化芸術に親しみ、楽しめる施設とします。

能楽堂

能楽堂で行われている能をはじめとする日本の伝統文化に関わる活動が、イベントなどを通じて公園空間に広がりを見せることで、来園者が気軽に日本の伝統文化の魅力を感じることができる学びと交流が育まれる施設とします。

日本庭園

芸術文化施設間の連携を強化し、来園者にとって入りやすく、親しみやすい環境づくりを行います。また認知度の向上を図り、より多くの人々に日本庭園の芸術性や文化性、茶道の心得などを体感し学ぶことができる施設とします。

③文化財関連施設

鴻臚館跡展示館

既存の鴻臚館の原寸大模型や遺構の露出展示を活かしつつ、鴻臚館時代をわかりやすく知ることができる施設としての改修を検討します。また、ガイダンス機能に加えて便益機能を付加し、国内外からの来園者の様々なニーズへの対応を図り、誰もが親しめる学びの場となる施設とします。

多聞櫓

国の重要文化財としての価値を守るため、保全を前提としながら積極的な活用を推進し、県民・市民や観光客の認知度を高めます。ガイダンス機能や便益機能の付加については検討課題とします。

潮見櫓

学術的な検討を踏まえながら潮見櫓の復元を行います。また、解説サインの設置や歴史的景観の復元に向けた植栽など、周辺でのお城の雰囲気を感じられる環境整備を行います。

祈念櫓

学術的な検討を踏まえながら本来の姿への復元を修復整備と併せて検討します。

④広場

三ノ丸広場

県民・市民の日常的な散策や新たな大規模イベントや公園の特徴を活かした多様なイベントに対応することのできる広場とします。

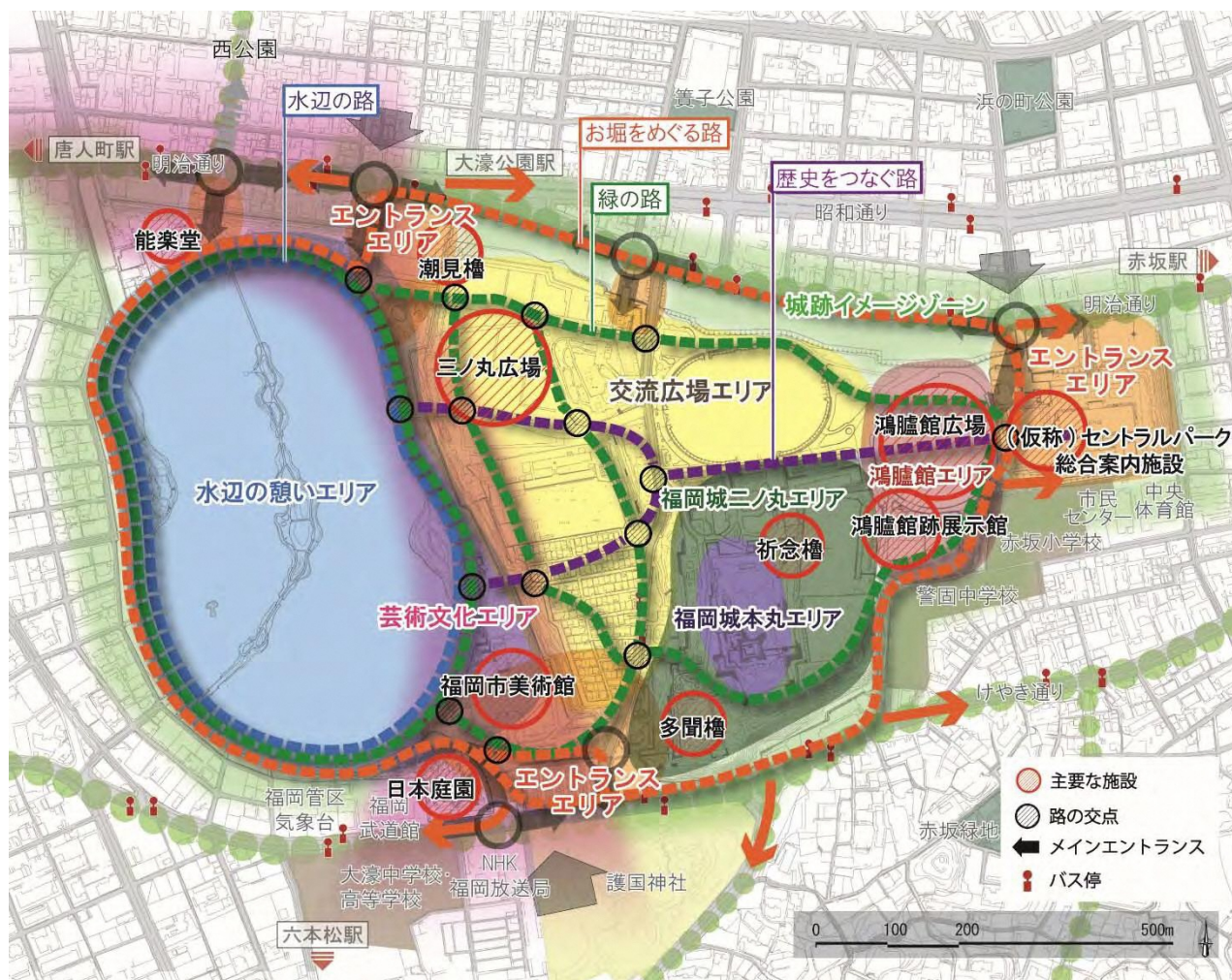
鴻臚館広場

明治通りからの玄関口であり、多くの人々の往来があることを想定し、幅広い層の来訪者が気軽に立ち寄ることのできる集客・交流イベントの実施のほか、日常的な市民の憩いの場としての利用に適した広場とします。

また、鴻臚館という施設の有していた機能、そこで行われていたことを理解し実感できる空間とします。

(4) 実施方針図

ゾーニング、主要な動線、主要な施設を重ね合わせたものを実施方針図とし、大濠公園・舞鶴公園の一体的な今後の利活用の骨格として位置付けます。



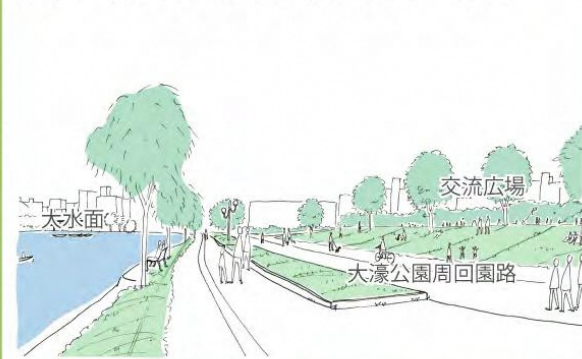
図：実施方針図

■展開イメージ

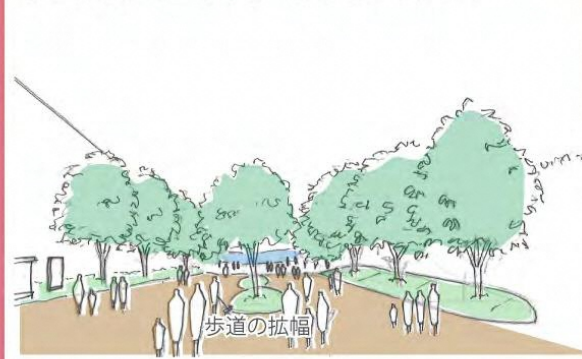
公園内の様々な場所で、利活用イメージで示した活用が展開されるよう、実施方針に沿った両公園の利活用の展開イメージを示します。



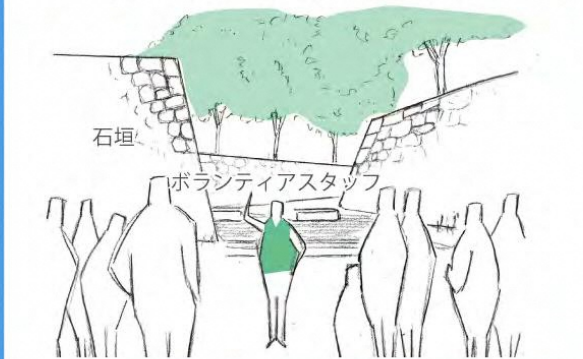
大濠公園と舞鶴公園の空間的な一体化



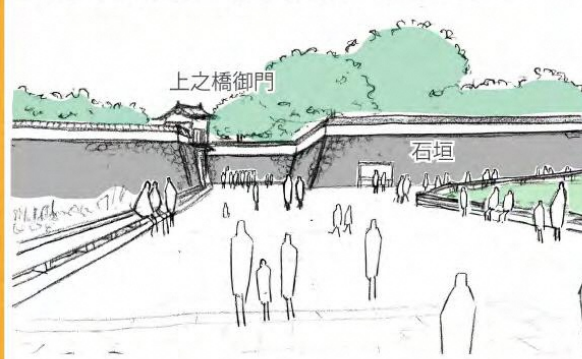
ゆとりのあるエントランス空間の確保



ボランティア活動しやすい環境づくり



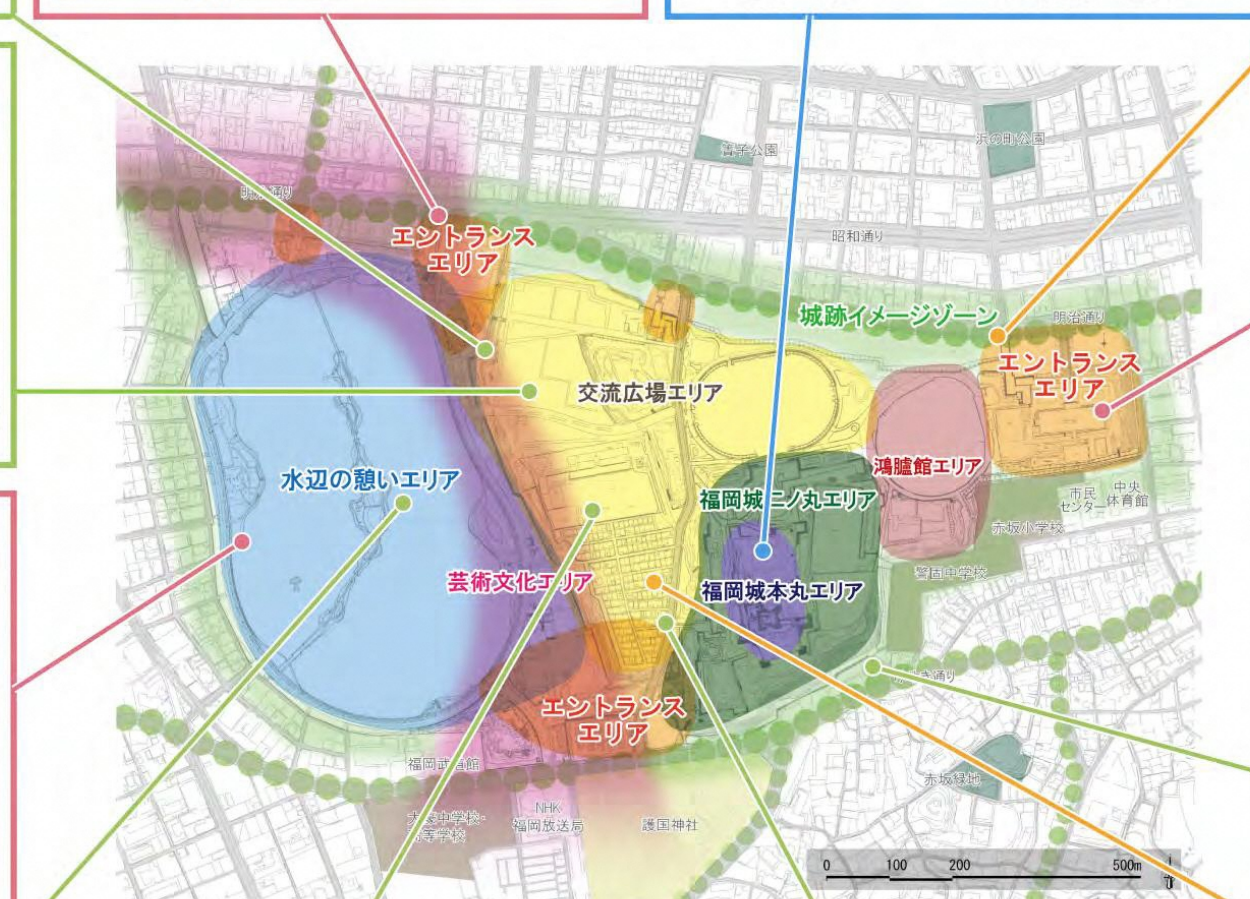
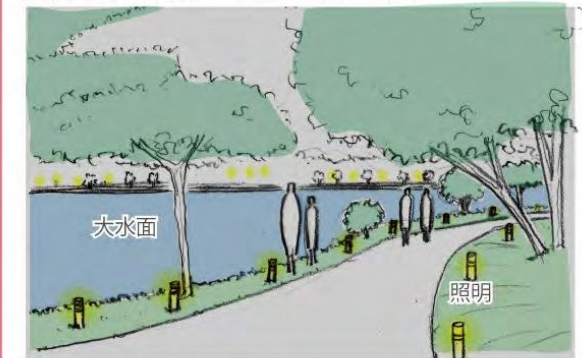
お城の雰囲気を感じられる空間づくり



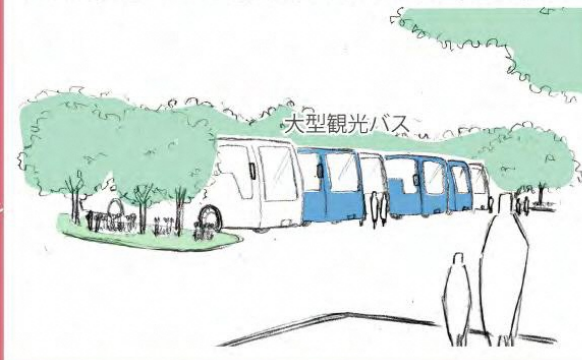
大規模イベントが行える広場の確保



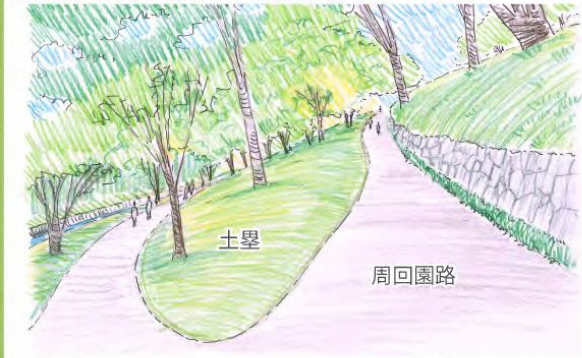
夜間利用の安全確保と魅力向上



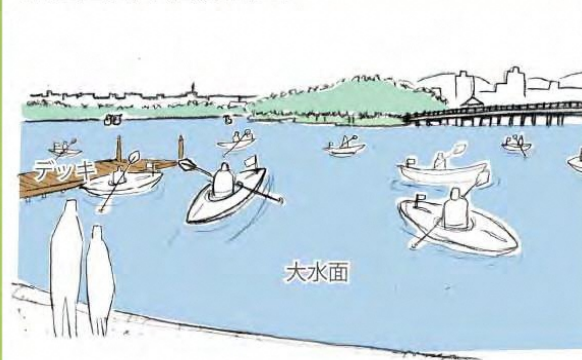
大型観光バスにも対応できる駐車場の確保



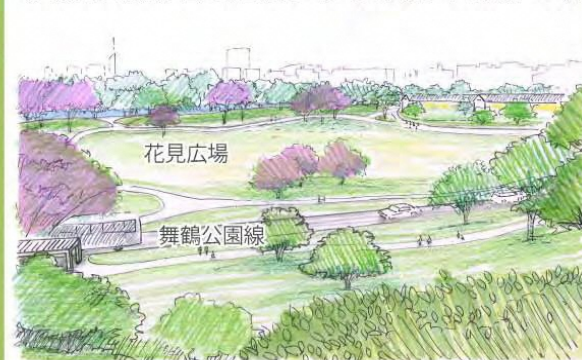
史跡や緑を楽しめる周回園路の確保



水辺空間の魅力向上



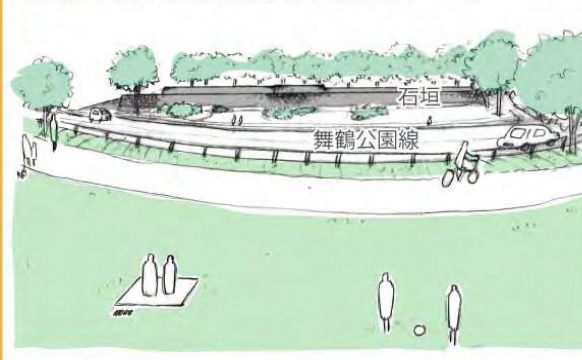
施設移転跡地の活用によるさくらの名所づくり



舞鶴公園線沿線の風景づくり



史跡の雰囲気を感じられる空間づくり



第Ⅳ章 管理運営計画

1. 基本的な考え方

ここでは、利活用イメージで示された将来像を実現するため、公園マネジメントの視点から、管理運営の方向性と管理運営主体を整理します。

(1) 管理運営の方向性

大濠公園・舞鶴公園が持つ特性を十分に発揮させる公園マネジメントを実践するために、企画運営と共働の公園づくり、維持管理について、方針に沿った取組みを展開していくことが重要です。

①企画運営

歴史や立地などの公園の特性を活かしながら、利用者に喜ばれ、県民・市民活動を育てていく企画運営を行います。

②共働の公園づくり

子どもからお年寄りまで幅広い世代からなる地域住民をはじめ、県民・市民、各種団体や企業等の様々な主体との共働を育む公園づくりを行います。

③維持管理

公園管理の基盤として、再整備と連動しながら継続的改善を進め、更なる利活用を推進する維持管理を行います。

ここでは、第Ⅲ章1. 利活用イメージの展開（1）ゾーニング（P20～22）における利活用の考え方にに基づき、これらの具体的な取組みの方向性について整理し、その実現に向けた地域連携や体制づくりの考え方を示します。

(2) 管理運営主体

今後の管理運営にあたっては、県民・市民、観光客、企業の参加の基で、管理運営の取組みは現在の行政主導の状況から、公園に関わる様々な人々が主体となった運営を目指し、連携体制の構築を行います。



図：管理運営主体の概念図

2. 企画運営

資料編 P125～131 参照

本計画では、イベント及び利用者プログラムのソフト展開を効果的に行っていくため、県民・市民と観光客という二つの利用者をターゲットに施策を実施していきます。

県民・市民に対しては、すでに評価の高い両公園の季節の花々・みどりを活かしたイベントの充実を図ります。第1段階（STEP1）では、さくらまつりを中心とした春のイベントのパッケージ化を図り、第2段階（STEP2）ではそのノウハウを活かし、四季を通じてパッケージ化されたイベントを実施します。

観光客に対しては、鴻臚館や福岡城の歴史資源を活かしたプログラムの充実により、公園に訪れた特別感を演出します。第1段階（STEP1）では、福岡城の本丸及び三ノ丸広場と鴻臚館跡展示館周辺で実施し、第2段階（STEP2）ではその範囲を福岡城跡全体に広げ、段階的なレベルアップを図ります。

ターゲット	展開イメージ		
	現在	STEP1	STEP2
 県民・市民	 さくらまつり	 春・秋のイベントをパッケージ化	 年間通じてパッケージ化されたイベントやプログラムを実施
 観光客	 【福岡城・鴻臚館】一部実施	 【福岡城】本丸及び南丸で実施 【鴻臚館】展示館で実施	 【福岡城・鴻臚館】全体で実施

図：ソフト展開のイメージ

（1）イベント・利用プログラム

大濠公園・舞鶴公園は、歴史施設や芸術文化施設、豊かな水辺や緑の自然環境を有しており、来園者の様々なアクティビティに対応し、また新しい利活用の可能性を秘めています。

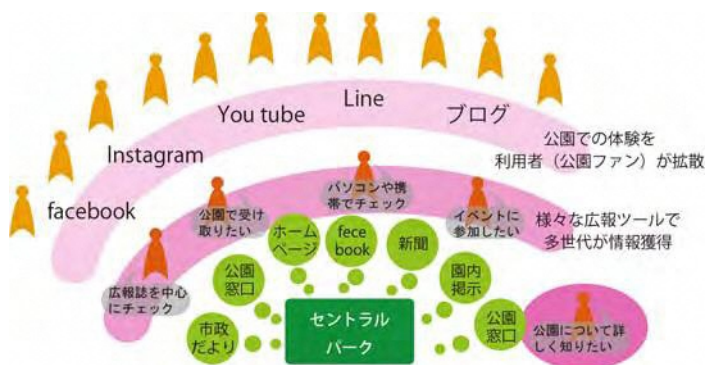
公園の企画運営としては、歴史探訪や自然観察、ジョギングなどの現在の利用促進を図りながら、更に公園が持つ場所の魅力や環境を活かし、ARやVRなどのデジタル技術の活用を視野に入れた新たなイベントやプログラムづくりを行うものとします。

また、ガイドボランティアによる公園内の案内や、海外からの来園者でも利用することができる通訳ガイド付きのプログラムなど、誰もが参加できるイベントやプログラムの充実を図ります。

(2) 情報発信

公園の基本的な情報発信やイベント告知、安全管理だけにとどまらず、コミュニティ活動などの県民・市民の取り組みや県・市の観光情報を発信していくことで、福岡の情報発信の拠点となることを目指します。また、観光情報や歴史ガイド情報、公園の総合案内機能を持った（仮称）セントラルパーク総合案内施設を新たに設置するとともに、両公園内の各施設において、周辺の観光情報や歴史文化情報を入手できるようにします。

さらに、県民・市民と共働で、情報紙やインターネットを介した情報発信の仕組みづくりや旅行会社や出版社等の企業と連携した情報発信の仕組みづくりを検討し、官民一体となった情報発信や多様な主体との連携イベント、新たな公園ファンの獲得につなげていきます。来園者自身もSNS等を通じて情報発信ができるよう、福岡市の無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の導入等を検討し、インターネット環境の向上を図ります。



図：県民・市民と一体となった情報発信

①案内情報

- ・イベント案内：イベントの実施日時や内容、参加条件などを伝える
- ・見頃案内：桜の開花や紅葉の時期等を伝える
- ・利用受付案内：スポーツ施設などの利用受付方法や空き情報などを伝える
- ・歴史案内：鴻瀨館跡や福岡城跡など両公園に関連した歴史情報などを伝える

②管理情報

- ・市民活動等の紹介：ボランティア・市民団体の活動や募集情報を伝える
- ・禁止事項等の伝達：公園の利用規則や禁止事項などを伝える
- ・緊急案内：休園や開園時間の変更、利用禁止区域などを伝える

表：公園全域における情報提供

提供場所	提供内容	媒体・利用方法
全域	・公園の各エリア、施設のガイド情報	貸出する携帯端末や携帯電話のソフトウェアを利用し、セルフガイドによる公園巡りを行う。通信ネットワークに関しては、公園全域をカバーするWi-Fi通信を用いる。
全域	・イベントの実施情報（当日のイベント開始や変更に関する速報）	貸出する携帯端末や携帯電話のソフトウェアを利用し、当日のイベント開始や時間・場所の変更、また、安全管理に関わる情報を、速報で音声や文字情報で来園者に通知する。

3. 共働の公園づくり

ここでは、周辺地域との連携によるまちづくりとの一体化や、民間活力による魅力づくり、県民・市民共働の体制づくり、一体的な整備と運営を支援・継続するための仕組みづくりについて、取組みの方向性を示します。

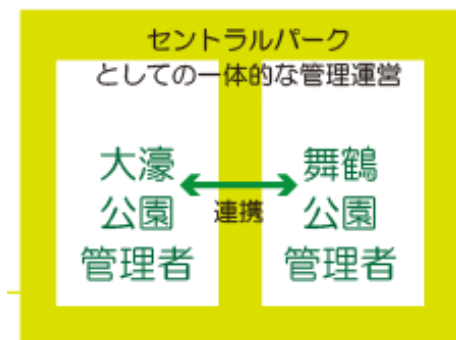
(1) 市民共働の運営体制づくり

様々な世代の県民・市民の参画により公園を様々な連携体制の中で「みんなで育てる」ための仕組みづくりを示します。

① 両公園の一体的な運営体制づくり

大濠公園・舞鶴公園の管理者連携による一体的な管理運営体制の構築を図ります。

また、平成 27 年度に設置した「大濠・舞鶴公園連絡会議」をはじめとした、両公園の管理者と指定管理者の連携により、まずは公園の統一的な運用や総合的な企画推進などを進めていきます。

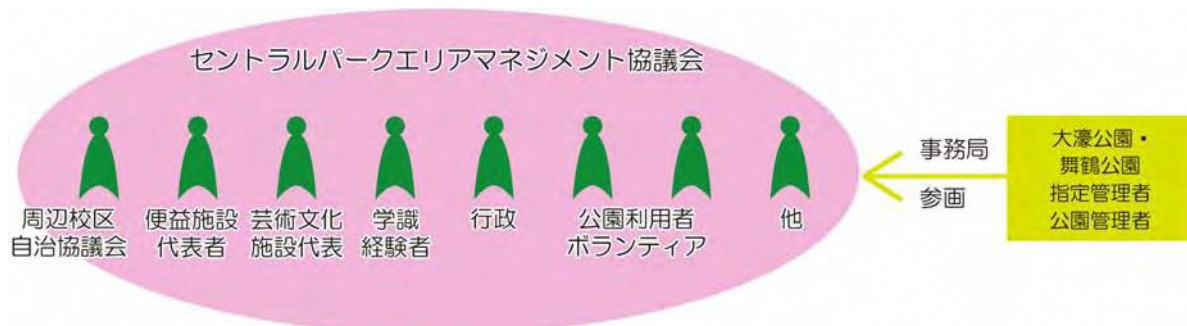


図：一体的な管理運営

② 公園内外の関係者が連携する体制づくり

両公園の管理運営に関する協議や意思決定を行う組織として、「(仮称) セントラルパークエリアマネジメント協議会」を設立するなど、関係団体と一体となった協議の場の仕組みづくりを検討していきます。体制のイメージとしては、両公園の指定管理者や公園管理者が事務局となって会議を運営し、行政や学識経験者、園内の施設代表者、公民館や校区の自治協議会などの地元代表、ボランティアなどの園内活動団体代表が加わり、全ての利用者が快適に利用できるよう、公園に係る様々な取組みの連携に向けた協議・検討や情報共有を行います。

また、セントラルパークエリアマネジメント協議会を通して行政、専門家、民間、地元、公園利用者が一堂に会し、情報共有や協議を行いながら、周辺地域でのイベントとの連動や、周辺地域と一体となった体制づくり、県民・市民の意見を反映できる体制づくりを含めて検討していきます。



図：セントラルパークエリアマネジメント協議会の体制

③専門的見地を取り入れる体制づくり

施設を整備する場合の統一的なデザインの保持や、樹木など動植物の適切な管理、史跡との整合などの課題について専門的な見地からアドバイスを受けるため、必要に応じて分野ごとに学識経験者らで構成する「専門アドバイザー部会」を設け、意見を取り入れる体制を構築します。



図：専門アドバイザー部会のイメージ

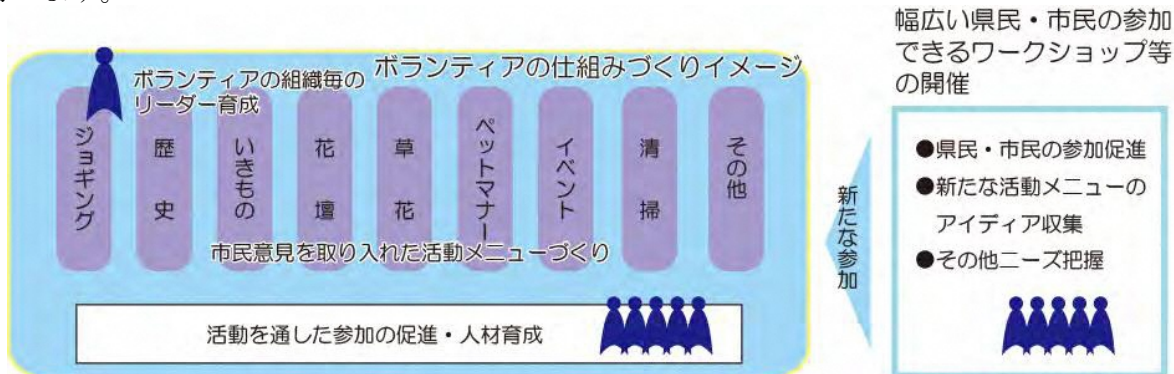
④県民・市民共働を育むボランティアの仕組みづくり

両公園が県民・市民に愛され、より地域に根付く公園としていくため、ガイドボランティアや清掃活動など、管理運営への県民・市民の参加の仕組みづくりを検討していきます。

活動メニューは、公園利用者からの意見を取り入れたものとし、観光客などに向けて文化財の価値を伝えるためのものや、芸術文化の魅力を伝えるためのもの、日常的な公園利用者のためのものなど、グループや対象者毎にバランスを取りながらプログラムの企画・実施を行っていきます。また、歴史や自然等の分野ごとのガイド育成に向けて、必要な講習会の開催や、ボランティアグループの交流会の実施など、技術の習得や管理運営に関わることへの意欲を促す取組みを行い、さらなる参加の促進やボランティアをはじめとした利用者の育成支援へとつなげていきます。

また、定期的にワークショップ等を開催し、新たなボランティアへの参加のきっかけづくりとするとともに、県民・市民のニーズ把握やアイデア収集の場として活用していきます。

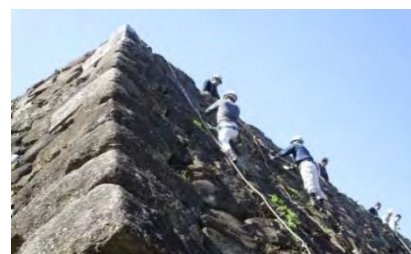
また、子どもたちが公園の管理運営を実践する体験プログラム等を実施するなど、周辺の小中学校とも連携し、子どもたちが楽しみながら公園の管理運営に参加できる仕組みづくりを行います。



図：県民・市民参加の仕組みづくり

⑤企業や団体との連携

セントラルパークとしての魅力を一層高め、福岡の地域・経済の活性化に役立てるため、企業や各種団体の知恵、労力、資金などを受入れ、効果的に活用していくシステムやプロジェクトなどを検討します。具体的には、企業CSR、NPOとの連携によるイベントの企画・運営や、資金や活動面での支援、教育、福祉施設との連携による日々の管理作業やイベントのサポート等が考えられ、互いにメリットのある連携・活用の方策等を検討していきます。

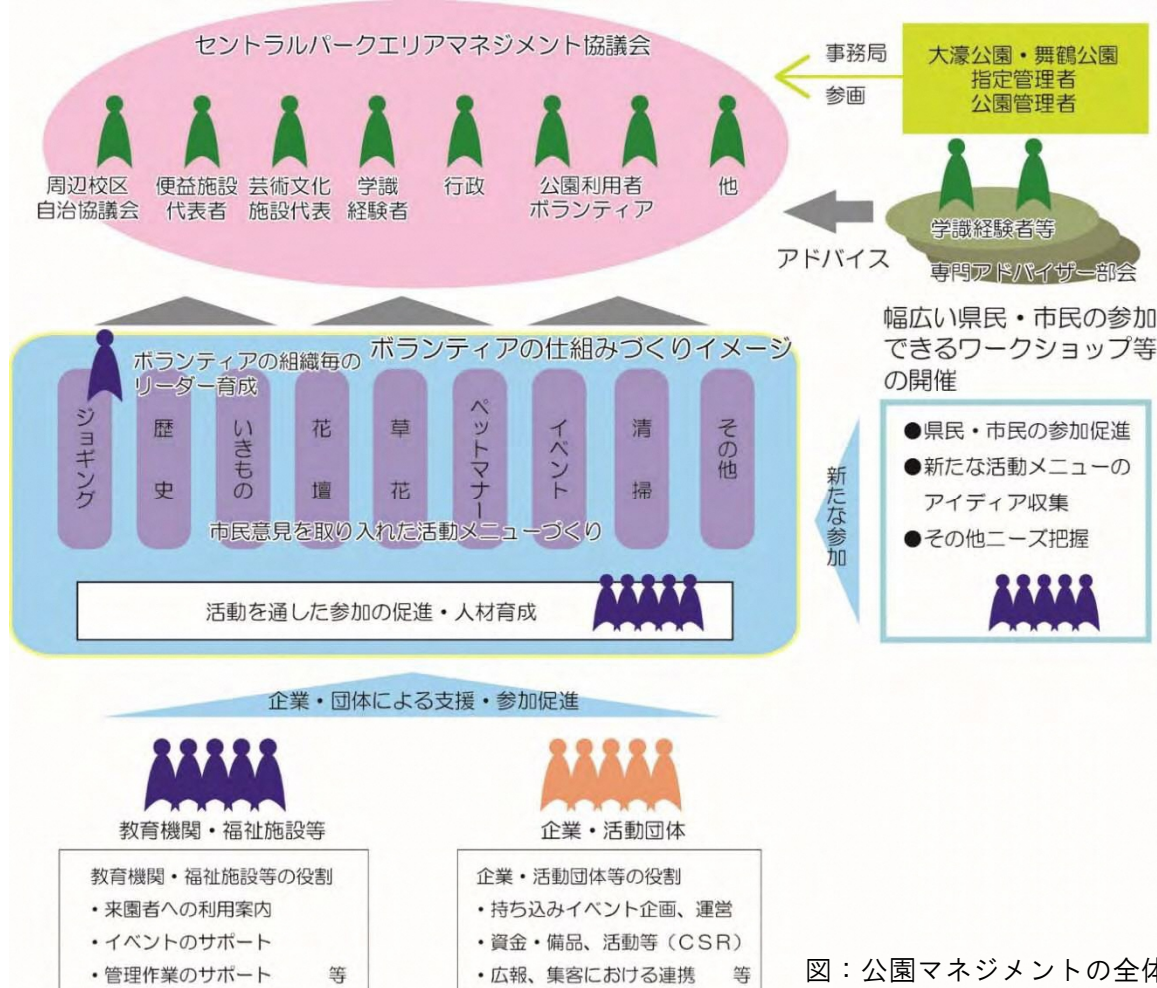


写真：造園団体によるボランティア活動（石垣除草）

図：企業や団体との連携イメージ

⑥共働による公園マネジメントの全体像

多くの県民・市民の共働による公園マネジメントの全体像として、①～⑤の考え方を体系的に整理します。様々な連携が関係し合いながら、公園の管理運営の発展へと展開していきます。



図：公園マネジメントの全体像

（２）民間活力による財源確保と魅力づくり

県内・市内の企業や各種団体、県民市民等の意欲、ノウハウや資金など、民間活力の導入による魅力づくりの考え方を示します。

①整備・運営に関わる民間資産・ノウハウの活用

公園の利便性や快適性の向上につなげるため、公募設置管理制度 (Park-PFI) の活用などにより、民間のノウハウを活用した便益施設の整備・運営に取り組むとともに、民間企業の営業・広報活動を通じたイベントやコミュニティ活動への支援や、メディアとの連携によるPRにより、利用者のニーズに応じたサービス提供に取り組めます。

上記にあたっては、必要な人材確保や育成を行いながら、公園と企業の双方にとって、効果的かつ効果的な戦略を立てながら取り組めます。

また、新たな集客イベントの受入れを促進することにより、占用料や使用料の収入増加に取り組めます。



写真：大濠公園内のスターバックスコーヒー

②公園財源確保に向けた制度づくり

公園の財源確保の窓口を広げるために、公園基金の設置や拡充を行うとともに、管理運営費を支援する公園サポーター制度の導入により、寄付の金額によって様々な特典メニューを設け、継続的な寄付と公園利用につなげます。

また、ネーミングライツによる広告収入などを実現するための広告物等のルールづくりを検討していきます。



図：ニューヨークセントラルパークの仕組みを参考とした寄付と特典のメニューイメージ

(3) まちづくりとの連携

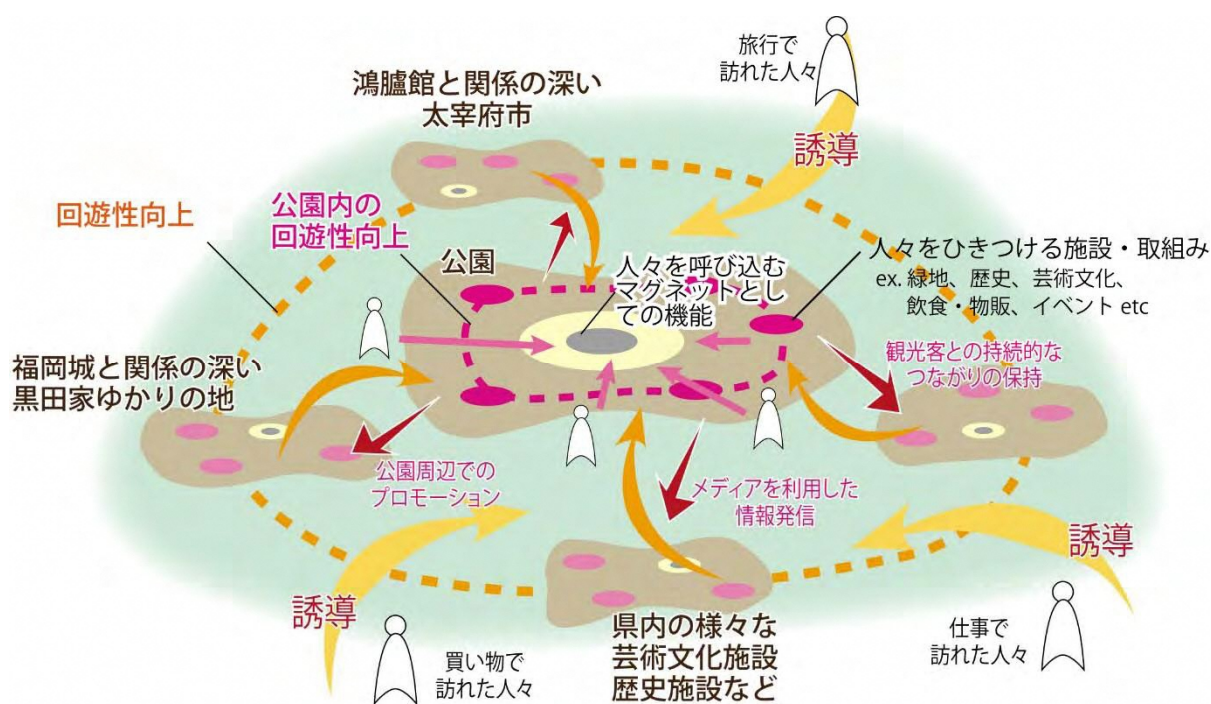
大濠公園・舞鶴公園の運営を通して、地域コミュニティの構築に寄与するとともに、県・市の歴史、観光、芸術文化など各分野のまちづくりの拠点となるよう結びつけていく必要があります。ここでは、「公園の中のまち」を目指し、両公園を中心とした一体的なまちづくりの考え方を示します。

① 広域連携

海外を含め広域から両公園への来訪者を誘導するため、国内外の歴史・芸術文化・観光などの分野の拠点と連携し、拠点間で情報発信を行います。

また、様々な目的で福岡を訪れた人々を両公園に誘導するため、県内の様々な地域における多様な場所や活動と公園利用との連動を図ります。具体的には、イベントや活動の一体化や魅力的な施設の設置により、公園に人々を呼び込むマグネットとしての機能をもたせ、外への情報発信と併せて、広域での回遊性向上につなげます。

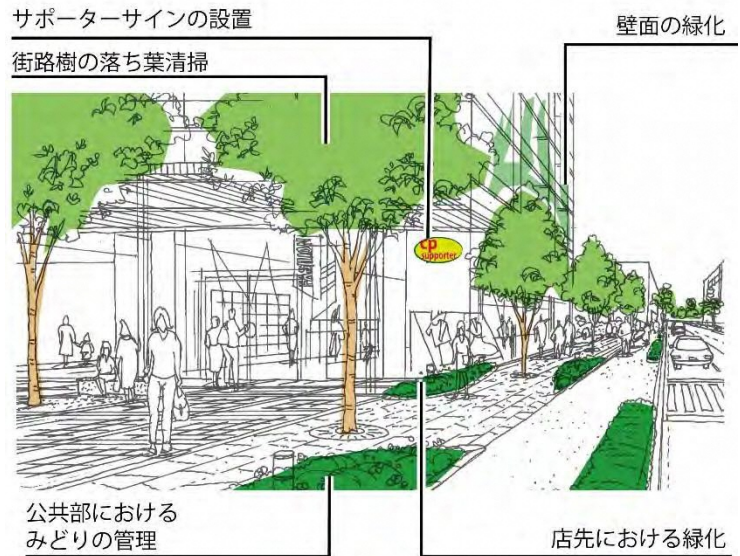
さらに、全国の都心にある大規模な公園や、城跡の公園等、立地環境や特性が類似していると考えられる公園との連携を強化し、効果的な施策等に関する情報交換や意見交換等を行うことで、広い視点での魅力づくりにつなげていきます。



図：広域連携の概念図

②公園と一体的な街並みづくり

公園と一体となった緑化推進のため、街路樹の落葉清掃や剪定など、公共空間におけるみどりの管理運営をはじめとして、民間施設の壁面や店先の緑化や花々の植栽などを促します。公園や史跡の景観等に配慮した街並みのルールづくりに取り組みます。また、公園内の芸術文化の雰囲気が周辺へと広がりを見せるよう、パブリックアート等の設置を検討し、周辺の芸術文化施設への回遊へとつなげます。



図：街並みづくりイメージ

③民有地の活用

近隣の民有地の公園への近接性というメリットを活かし、駐車場や店舗、ロッカー・シャワールームなどの機能の充実を図ります。

④災害時における両公園及び周辺施設との連携

地域防災計画において広域避難場所に指定されている公園として、飲料水や食料などの備蓄など大濠公園と舞鶴公園で連携した防災拠点づくりを推進するとともに、災害時に救援活動の拠点となる中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等の周辺施設の連携の強化を図ります。

4. 維持管理

両公園内の植物や施設の状態を良好に保つことは、利活用を育んでいく上での公園管理の基盤となります。ここでは、計画、実行、評価、改善を繰り返すことで再整備と連動しながら継続的改善を進め、更なる利活用を推進するための維持管理計画について示します。

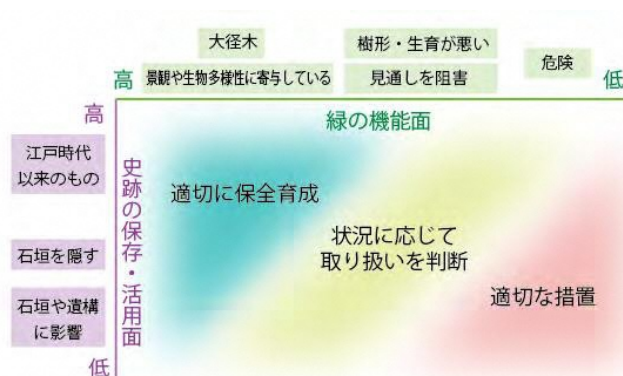
両公園の維持管理としては、公園の特徴的要素となる歴史的建造物や遺構の保全をはじめとして、植物やその基盤となる土や水、そこに生息する動植物なども含め、両公園一体として守り・育てていくものとします。また、公園利用者に対しては、公園を清潔に保ち、快適でわかりやすい利用を提供するとともに、樹木や施設の異常を早期に発見、速やかに対応することで安全を確保し、日頃からの機能確保に努めるものとします。

(1) みどりの管理

大濠公園では水面を南北に横断する中之島のマツ林や外周部の日本庭園、野鳥の森など、舞鶴公園ではサクラをはじめとする季節の花々や歴史ある大木など、両公園は、都心部にありながらも来訪者にみどりの魅力を伝え、様々な生物の住処となっている貴重な空間です。両公園の特性に応じたみどりの魅力を最大限に

活かすため、利活用を前提とした維持管理を行うとともに、必要に応じて機能の向上を図り、植物の健全な生育を保ち、植物の持つ機能を持続・発展させるみどりの管理を行います。

ここでは、公園全体のみどりの管理における基本的な内容を示します。



表：公園全体におけるみどりの管理の基本的事項

管理対象	主な特性や機能	維持管理の基本的事項
樹木	公園における豊かな緑陰だけでなく、桜の名所や生き物を育む空間を形成	樹木による修景、緑陰、遮蔽、生物多様性等の機能を維持するため、形態・生態における維持を図る。特に、大濠公園と舞鶴公園との一体感や、史跡への見通しを高める樹木整理や、剪定、桜の保全に努める。
芝生地・草地	都心部における貴重な広場としての芝生地や希少種も育む草地を形成	芝生地においては、日常的なレクリエーションやイベント等など利用に合わせた維持を図る。また、草地では、雑草の繁茂の抑制的管理だけでなく、希少種の保全に努める。
花壇	エントランスや園路沿いを彩る花壇を形成	四季を通じて花を楽しむことのできる花壇として空間演出を図り、また県民・市民とともに育む体制により維持を行う。
水辺 (大濠池・お堀)	大濠池を中心として、お堀の水辺が都心部における豊かな水辺空間を形成	浄化施設の清掃やハスの管理による富栄養化の防止、定期的な汚泥除去等による水質保全を図る。

(2) 歴史資源の管理

文化財関連施設については、鴻臚館跡整備基本構想（平成 27 年 3 月策定）と福岡城跡保存管理計画（平成 24 年 3 月策定）に基づき、継続的な価値の保存に向けた管理を行います。

(3) 施設管理

両公園内には様々な施設があります。利用者が安全で快適に両公園を利用できるよう、時間とともに劣化していく施設の状況を捉え、それを防止・補修・更新することで各施設の機能を十分に発揮し、必要に応じて機能の向上を図る施設管理を行います。

ここでは、公園全体の施設管理における基本的な内容を示します。

表：公園全体における施設ごとの維持管理の基本的事項

管理対象	主な特性や機能	維持管理の基本的事項
園路・駐車場	各施設をつなぎ、散策やジョギング等に利用される園路やエントランスとしての駐車場・広場を形成	安全で快適に利用できるよう点検、清掃を行い、破損等が確認された場合は早急に補修を行う。
遊具広場	遊具やベンチ等が設置され、子どもの遊び場を形成	安全で快適に利用できるよう点検を重点的にを行い、補修等が必要な場合は速やかに行う。
建物	園内各所に芸術文化施設、ガイダンス施設、店舗、休憩施設が拠点施設として形成	来園者が分かりやすく快適に利用できるよう、建物施設の点検・清掃・補修を行う。
トイレ	排泄の用を足すための設備を備えている場所であり公園内の各所に点在	来園者がいつでも快適に利用でき安全で衛生的な状態を保つよう、点検、清掃、消耗品の補充を行う。
歴史的建造物	福岡城や鴻臚館における復元建物が整備され、歴史の学習拠点を形成	歴史性を損なうことなく、来園者が分かりやすく学習するための清掃・点検・修繕等を行う。
石垣	舞鶴公園内において福岡城の貴重な風景を呈している石垣が存在する	巡回点検による破損箇所の速やかな発見と、定期的な除草等による保全を行う。
サイン	公園のガイドマップ等、来園者の利便性向上・公園利用の促進に資するもの	定期的な巡回により、来園者が公園を利用しやすいよう、破損の確認や清掃・補修を実施する。公園管理者及び施設間の密な情報共有により、情報に変更を生じた際には速やかに反映する。
工作物	簡易柵等の来園者の安全確保や、自動販売機・公衆電話等の利便性向上に資するもの	公園利用の安全確保や利便性向上のため、定期的な巡回による破損の確認や清掃・補修を実施する。
バックヤード	管理作業ヤード及び資材等の置き場に活用する	安全管理に留意して、来園者の立ち入りを規制する。

第Ⅴ章 整備計画

1. 基本的な考え方

利活用イメージの実現にあたっては、第Ⅳ章で述べた様々なソフト施策に加えて、施策の展開を支えるハード面での空間づくりが必要となります。

ここでは、利活用のイメージを実現していくために、必要な周辺地域の整備の方向性や、両公園の整備の方向性、さらに公園内における重点的なエリア整備、各施設整備について内容の整理を行います。



図：利活用イメージを実現するための整備の概念図

2. 周辺地域の整備の方向性

(1) 整備の考え方

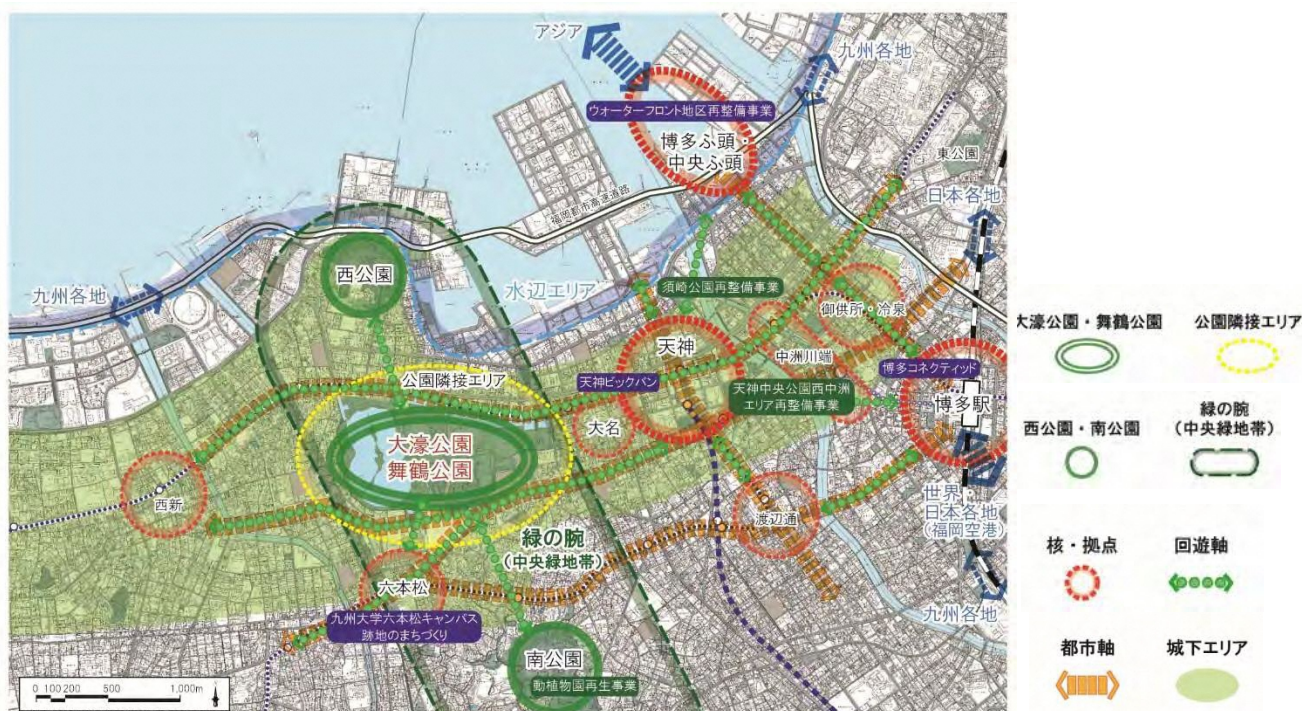
セントラルパーク構想策定以降、周辺地域ではまちづくりの動きが活発化しています。

天神地区では、アジアの拠点都市としての役割・機能を高め、新たな空間と雇用の創出を目的とした「天神ビッグバン」が進められています。また、ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）では、MICE やクルーズ船の需要の増加に対し、都市機能の供給力の向上、貴重な海辺を活かし、市民や来街者が楽しめる賑わいと憩いの空間づくりを一体的に進めることで、福岡市の新たな都心拠点の形成に取り組んでいます。さらに、九州の陸の玄関口である博多駅の活力と賑わいを周辺につなげていくプロジェクト「博多コネクティッド」の推進など、都市機能の向上に向けたまちづくりが進んでいます。

みどりに関しては、油山の山並みから南公園、大濠公園・舞鶴公園、西公園の市中心部へ伸びる緑の腕（中央緑地帯）が福岡市の緑の骨格を形成しており、これらの連携を強める緑のまちづくりとして、天神中央公園西中洲エリア再整備事業、福岡市動植物園再生事業、西公園のサクラの魅力向上等、都心部の公園やオープンスペースの再整備が進められています。

このような周辺地域の取組みの中で、両公園を豊かなみどりの中で人々が憩うことができる都心部の「オアシス」として、また、歴史やみどり、芸術文化などの両公園の魅力を最大限活かした福岡の「ランドマーク」として、都市の活性化につなげていくための整備を行っていきます。

さらに、みどり豊かでユニバーサルデザイン^(※4)に配慮した周遊網の整備を検討する等、周辺のまちづくりと連携した都心の回遊性の向上や、みどり豊かな公園の雰囲気周辺の拡大を進めていくこととします。



図：周辺地域の整備方針図

※福岡市都市計画マスタープランをもとに編集

(※4) ユニバーサルデザインとは

バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。（出典：障害者基本計画 第3次計画（平成25年9月閣議決定））

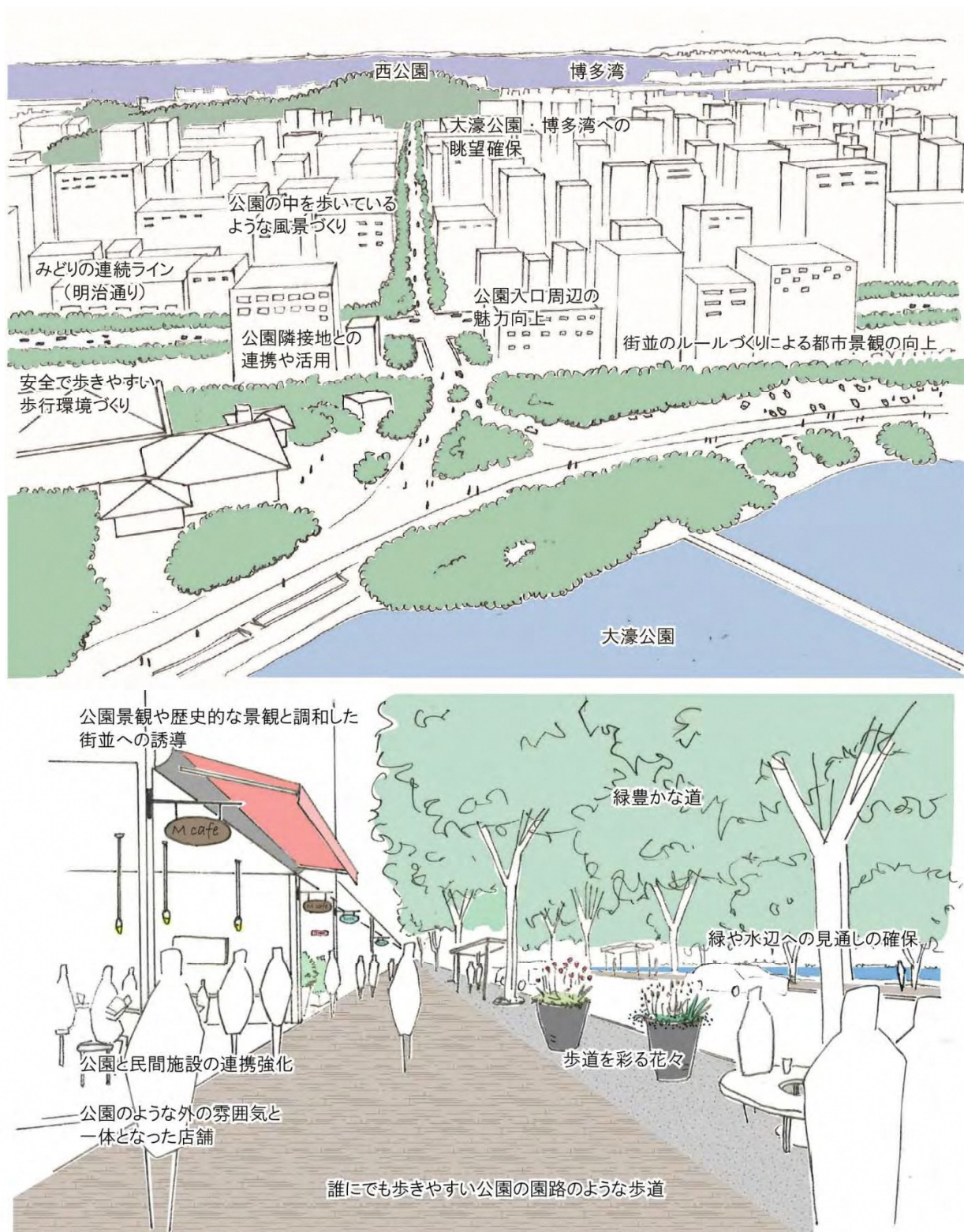
また、「福岡市都市計画マスタープラン」（平成 26 年 5 月改定）と「福岡市 新・緑の基本計画」（平成 21 年 5 月策定）をベースに、大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用によりその効果が波及し、「まちの公園」から「公園のまち」へと展開していくための考え方を示します。なお、この方向性に基づく大濠公園・舞鶴公園の範囲外の事業については、内容ごとに所管部署との連携を図りながら推進していきます。

表：各エリアにおける整備の考え方

エリア	整備の考え方
大濠公園・舞鶴公園 	急速な開発が進む都心部のオアシスである大濠公園・舞鶴公園エリアを核として、「まちの公園」から「公園のまち」の雰囲気へと福岡のまちを導くことができるよう、公園隣接エリアなどの見本となる、歴史や芸術が感じられ水と緑が豊かで高質な空間づくりを推進していきます。
公園隣接エリア 	エリア内の公有地を活用し、公園の雰囲気や史跡の歴史的な雰囲気が公園外にまでにじみ出していくよう公園への見通しの確保や緑化等を推進するとともに、民有地と連携した公園入口部周辺の魅力向上を図ります。 また、大濠公園・舞鶴公園と一体となった緑化やまちなみのルールづくりを推進するとともに、両公園に隣接する護国神社や周辺駐車場、アートギャラリー、スポーツ用品店、ロッカー・シャワーなど、民間施設との連携強化による魅力の向上を図ります。
西公園・南公園 	西公園・南公園は、大濠公園・舞鶴公園などと合わせて緑の腕（中央緑地帯）を形成する緑の拠点となっています。これらの緑の拠点の魅力向上を図るとともに、公園間を緑でつなぎ、公園の中を移動しているような景観づくりを推進します。 西公園では桜の再生など魅力的な緑地としての存在感を高めるとともに、博多湾沿いの貴重な視点場として、生物多様性にも配慮しながら、樹木の適切な密度管理により視界の確保を図ります。 南公園では老朽化が目立つ動物園を中心に平成 18 年度から 20 年計画でリニューアルを進めています。今後も動物や人にやさしい動植物園へのリニューアルを推進します。
緑の腕 （中央緑地帯） 	市街地の生活環境や生物の生息・生育環境の軸となる緑を引き続き保全しながら市民との共働により新たな緑地などを創造し、緑の豊かさが感じられる美しい都市の景観形成を図ります。
水辺エリア 	自然に恵まれた都市・福岡の大きな特徴である水辺エリアは、福岡らしい良好な水と緑の風景として、市民の休息・レクリエーション空間の創出を図ります。 また、海からの眺望を大切にするとともに、背後に広がる市街地や博多湾の自然環境と調和した港の景観形成を図ります。
核・拠点 	都心部の魅力に更なる磨きをかける核・拠点づくりを目指すとともに、核・拠点の機能を補完する周辺地区と連携することにより相乗効果を高めます。また、幹線道路沿いの立地を生かして、沿道建物の高度利用を誘導し「九州・アジア」「環境」「魅力」「安全安心」「共働」の視点から都心部の機能強化と魅力づくりを進めます。
回遊軸 	公共交通や自転車を快適に利用でき、歩行者が楽しく回遊できる、質の高い都心部の回遊ネットワークを創出し、美しい街並みや緑、歴史資源などを楽しみながら誰にでも安心してわかりやすい回遊空間の創出を図ります。
都市軸 	福岡の骨格となる交通ネットワークを受け持つ都市軸として、都市計画道路などの整備状況に応じた土地利用の誘導や、沿道の有効利用、連続性のある良好な街並みの形成等を推進します。

(2) 展開イメージ

西公園や南公園などの緑の拠点や、天神や大名、六本松等の都心部の核・拠点間を緑でつなぎ回遊性を強化することで、大濠公園と舞鶴公園の水と緑豊かな雰囲気や、歴史と芸術文化の香りが公園の外にも広がりを見せ、福岡の都市自体が公園の中にあるように感じられるよう、周辺地域における整備の展開イメージを整理します。



図：周辺地域の整備の展開イメージ

3. 両公園の整備の方向性

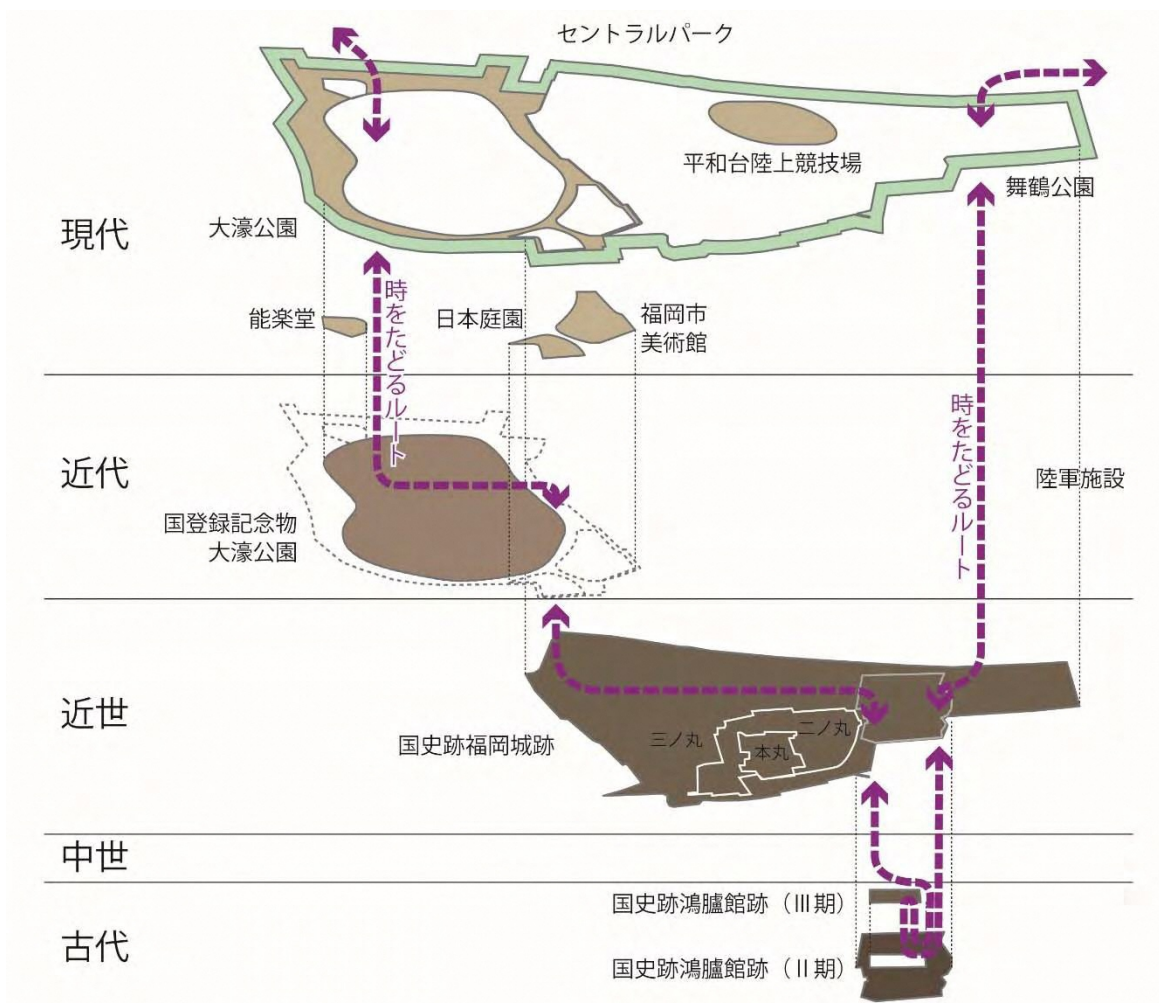
(1) 整備の考え方

ここでは、12の利活用イメージ(P8~19)を実現するため、両公園の整備の考え方を示します。

両公園の再整備にあたっては、県民・市民や観光客など、両公園を訪れる全ての来訪者にとって一年を通して快適で利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した、福岡市のオアシスとなるような公園づくりを推進します。

また、実施方針図(P26)をもとに、大濠公園と舞鶴公園の空間をつなぎ、一体的な活用を実現する整備を行います。みどりや歴史、芸術文化など、各エリアの魅力を磨きあげるとともに、ジョギングや散策などの動線の強化を行い、両公園の魅力をつなぎ、回遊性の向上を図ります。

さらに、歴史的な特性を活かした整備によって公園としての質の向上を図ることも重要です。両公園には古代の国史跡鴻臚館跡、近世の国史跡福岡城跡、近代の国登録記念物大濠公園、そして現代の平和台陸上競技場をはじめとするスポーツ施設など、古代から現代にかけて多様な施設がありました。両公園内に存在する各時代の施設のわかりやすさや魅力の向上を図るため、来園者が古代から現代へと連なる福岡二千年の歴史をたどることができ、福岡の歴史にふれることができる様々な利活用を育むためのランドマークとしての整備を行っていきます。

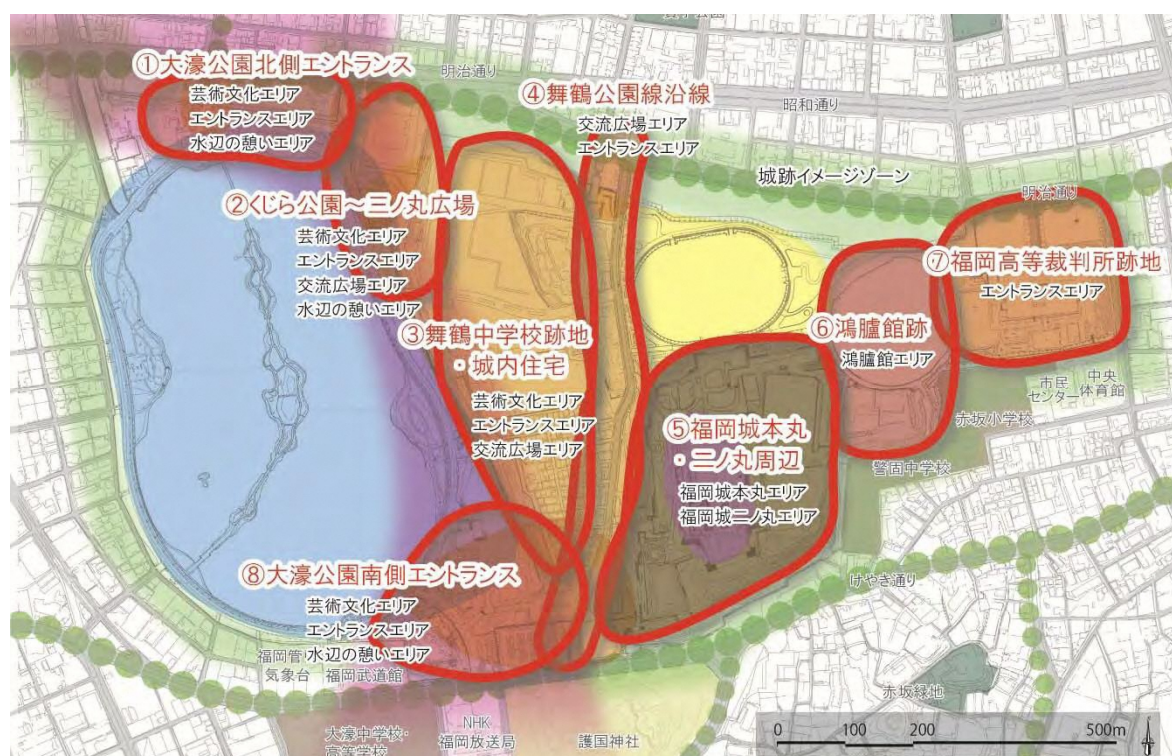


図：歴史の重層性の概念図

(2) エリア整備計画

両公園において、重点的な整備が求められる範囲や施設について、ゾーニング（P20～22）に基づく各エリアの特性を踏まえながら、課題や整備の方向性、内容について整理します。

- ①大濠公園北側エントランス： 地下鉄大濠公園駅から近く、明治通り側からのメインエントランスとして歩道や駐車場などが整備されています。北西側の入口は、能楽堂利用者が利用する入口にもなっています。
- ②くじら公園～三ノ丸広場： 大濠公園と舞鶴公園の境界部に位置し、両公園の一体的活用を図っていく上で重要な場所です。
- ③舞鶴中学校跡地・城内住宅： 既存の関連計画の中で、移転跡地を活用した広場整備や、暫定駐車場の設置、福岡城の地割の表現などが謳われています。
- ④舞鶴公園線沿線： 大濠公園と舞鶴公園の一体的活用を図り、一体的な交流広場エリアの雰囲気を作っていくためには、舞鶴公園線を横断する回遊動線や各エリアを縦につなぐ回遊動線の確保も重要です。
- ⑤福岡城本丸・二ノ丸周辺： 「国史跡福岡城跡整備基本計画」に示された内容を基に整備の方向性や整備計画を整理します。
- ⑥鴻臚館跡： 鴻臚館跡の史跡指定範囲内の具体的な整備内容は、「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」で検討を行うこととします。
- ⑦福岡高等裁判所跡地： 博多・天神方面からの公園への入口にあります。計画の具体的な内容については、高等裁判所跡解体後の発掘調査による遺構などの検出状況を考慮した上で、再度検討することとします。
- ⑧大濠公園南側エントランス： 芸術文化施設（福岡市美術館・日本庭園）が集中した場所に位置し、大濠公園への南側からのメインエントランスでもあります。福岡の芸術文化発信拠点として、施設自体の魅力やアプローチのしやすさが重要です。



図：エリア整備計画区域区分図

※上記エリア以外にも随時必要な整備を行っていくものとする。

①大濠公園北側エントランス

資料編 P143～145 参照

■整備の方向性

a)歩車道動線の分離

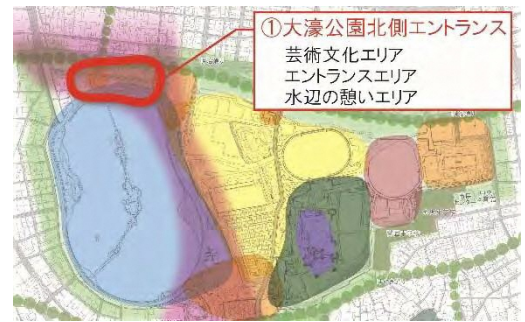
- ・大濠公園メインエントランスの歩行者動線と車両動線を分離し、歩行者が安心して歩くことができる環境を整えます。

b)明治通りから公園内への見通し確保

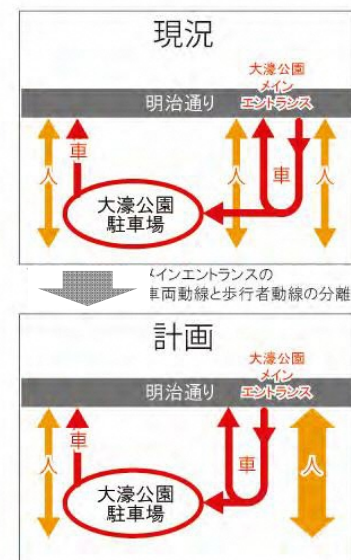
- ・大濠公園メインエントランスの歩道幅員の拡幅や樹木整理などにより、明治通り側から公園内を見通すことができるようにします。

c)駐車場周辺へのみどりの配置

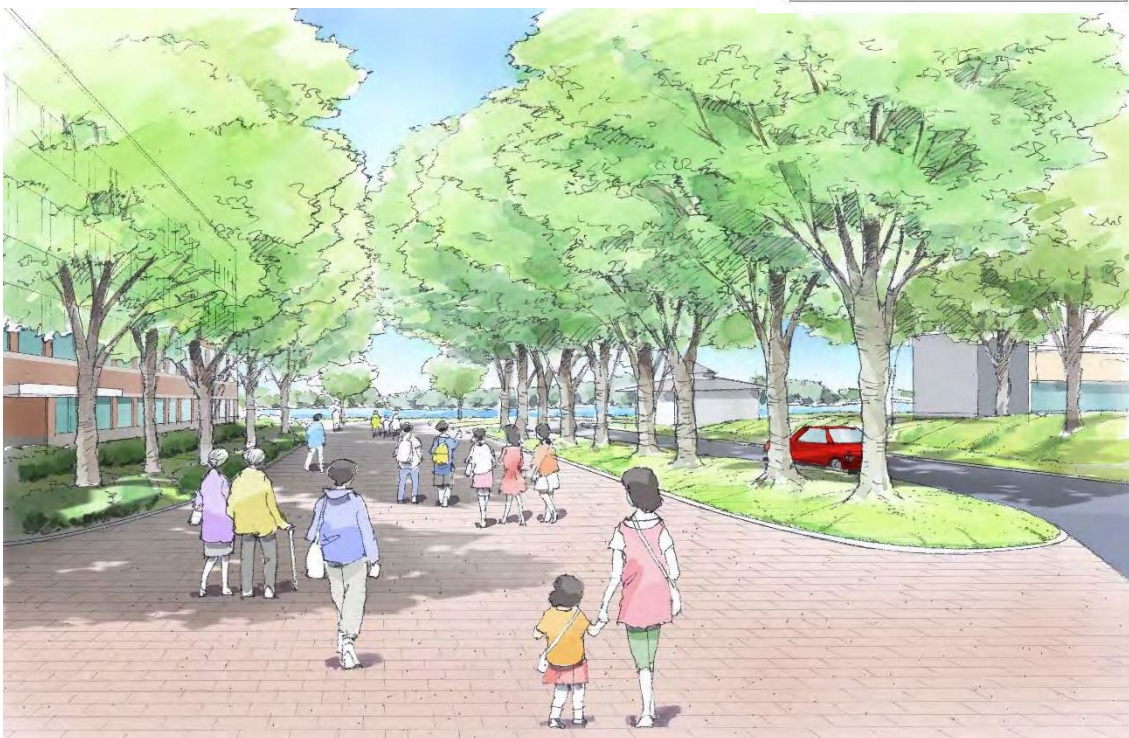
- ・周回園路を利用する人々から駐車場が見えにくいようにするため、駐車場周辺にみどりを配置します。



図：大濠公園北側エントランス 位置図



■整備イメージ



大濠公園メインエントランスの歩行者と車両の動線が分離し、快適で安全に歩くことができるようにします。また、明治通りから公園内への見通しを確保し、水と緑の雰囲気公園外からも感じることができるようにします。

②くじら公園～三ノ丸広場

資料編 P146～148 参照

■整備の方向性

a)土塁の保存と顕在化

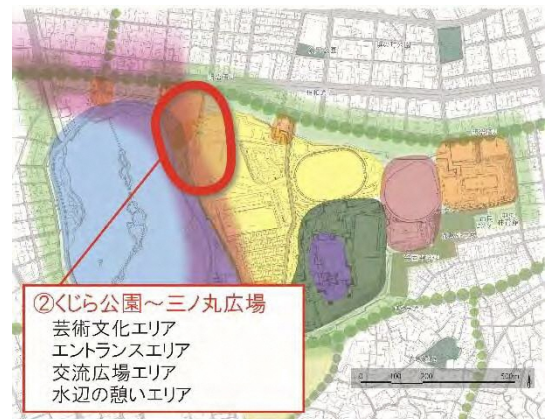
- ・今後の発掘調査や文献調査等に基づき、本来の土塁の形状などを把握し、そのうえで覆土による土塁の保存と顕在化など、本質的価値を伝えるための適切な手法を検討します。

b)両公園の空間的な一体化

- ・既存樹木の整理を行い、両公園間の見通しを確保します。

c)遊具の保存と更新

- ・適切な維持管理による大型遊具の保存とともに、その他の遊具については老朽化に合わせて芸術性の高い遊具への更新を行います。



図：くじら公園～三ノ丸広場 位置図

■整備イメージ



樹木の整理に加え土塁の保存と顕在化により、大濠の水面から三ノ丸広場へとつながる空間的な広がりや公園間の見通しを確保します。また、両公園間の回遊を促進する動線の強化と、小規模イベントなどを開催できる広場を設置します。

③舞鶴中学校跡地・城内住宅

資料編 P149～151 参照

■整備の方向性

a)広場空間の確保

- ・大規模なイベントにも対応できる、開放的な広場空間を確保します。

b)地割の表現

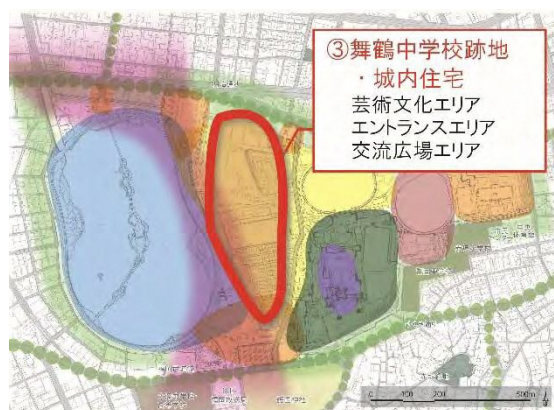
- ・公園利用者の動線に配慮しながら、舗装や縁石などで福岡城の地割を表現します。

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡地外に確保することを原則とします。

d)サクラの名所づくり

- ・遺構などに物理的・視覚的に影響の少ない箇所を選び、サクラを植えることで名所づくりを進めます。



図：舞鶴中学校跡地・城内住宅 位置図

■整備イメージ



交流広場では、福岡城の地割の表現を行うとともに、石垣や大濠公園の水面への見通しを確保し、歴史的な雰囲気や水と緑の豊かさを感じることができるようになります。また、設備の強化を行い様々なイベントに対応できるようになります。

④舞鶴公園線沿線

資料編 P152～154 参照

■整備の方向性

a)舞鶴公園線を横断する動線の確保

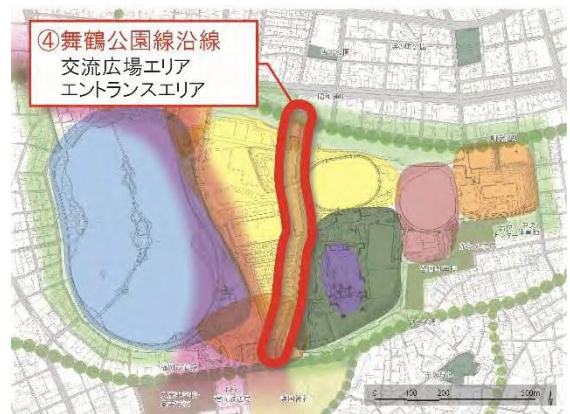
- ・公園利用者の動線に配慮し、適切な位置に横断歩道を移設します。

b)舞鶴公園線と並走する動線の確保

- ・施設移転跡地などを活用し、舞鶴公園を南北に回遊できる動線を確保します。
- ・舞鶴公園線の車道と園路の間に広い幅で緑地帯を設け、歩行者がまるで公園の園路を歩いているような動線を確保します。

c)史跡景観と公園景観への調和

- ・電線の地中化や、街路樹の再配置などにより、史跡地景観と公園景観に調和した空間づくりを行います。
- ・周辺景観に影響を与えないよう、道路附帯構造物は出来るだけ高さが低く、見通しを阻害しないものとします。



図：舞鶴公園線沿線 位置図

■整備イメージ



舞鶴公園線の車道と園路の間に広幅員の緑地帯を設け、公園内の園路を通っているかのような雰囲気づくりを行います。既存のツツジ園の樹木が整理され、石垣への見通しを確保し、石垣を背景に記念撮影等を行うことができる広場を設置します。

⑤福岡城本丸・二ノ丸周辺

資料編 P155～157 参照

■整備の方向性

a)城郭としての景観づくり

- ・石垣や櫓等の城郭景観を伝える遺構への見通しを確保します。
- ・当初は直線で構成されていたと考えられる地割を表現します。
- ・真正性を確保できる遺構の修復・復元を進めます。

b)城郭景観の保全

- ・本丸、二ノ丸の二つの郭を取り込んだ範囲を設定する。
- ・城郭としての景観が最も遺存しており、景観保全の面や現在の利用形態からも一体的な保存整備が可能なゾーンとなることが期待される。

⇒歴史的建造物や庭園等の復元整備、石垣の保存・修景に努め、城郭としての景観保全を重視した整備を行う。



図：福岡城本丸・二ノ丸周辺 位置図

※b) は、「国史跡福岡城跡整備基本計画」で推進

■整備イメージ（将来）



※「国史跡福岡城跡整備基本計画」より

失われた櫓等の復元により、特に城郭の中心となる本丸、二ノ丸では、福岡城を体感することができるようにします。天守台からの眺望は、自然地形を巧みに取り入れた城の地選の見事さ、城郭の広大さ、全体構成を感じることもできます。

⑥鴻臚館跡

資料編 P158～160 参照

■整備の方向性

a)鴻臚館跡の価値の保存・継承と効果的な情報

発信の実現

- ・鴻臚館の全容解明に向け、その価値を明らかにしながら保存・継承を前提に、効果的な情報発信を併せて行います。

b)歴史の重層性が実感できる表現

- ・古代鴻臚館の歴史的価値に沿った整備を図るものとし、公園全体及び周辺を含めた、歴史の重層性が理解できるような表現を目指します。

c)サイトミュージアムと都心部の貴重なオープンスペースの融合

- ・サイトミュージアムの一翼を担えるよう、多様なニーズに対応できるオープンスペースとしての活用を視野に入れた整備を目指します。

d)国際交流空間としての機能の再生

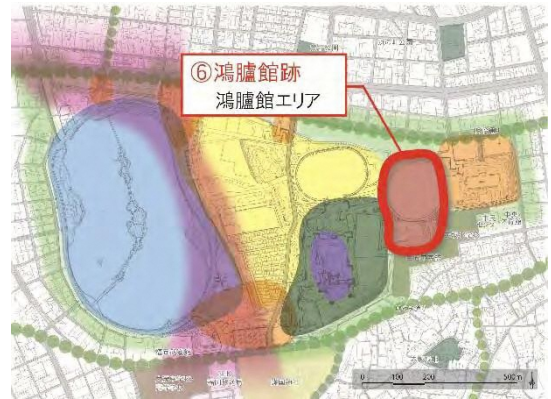
- ・福岡の新たな交流空間としての活用や観光交流コアとなるよう、かつて鴻臚館が有していた交流空間としての機能を現代的に見直します。

e)海路や古代官道がつないだ関連史跡等との広域ネットワーク連携

- ・海路や古代官道を介した関連史跡とのつながりを史跡ネットワークとして強化し、広域観光への展開も視野に入れた活用を目指します。

f)多くの来訪者が繰り返し利用し続けることのできる空間の創出

- ・来訪者と価値観の共有を図るため、多くの来訪者が利用し続けることのできる空間を創出することを目指します。



図：鴻臚館跡 位置図

■整備イメージ

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より



図：短・中期整備イメージ図



図：長期整備イメージ図

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より

⑦福岡高等裁判所跡地

資料編 P161～163 参照

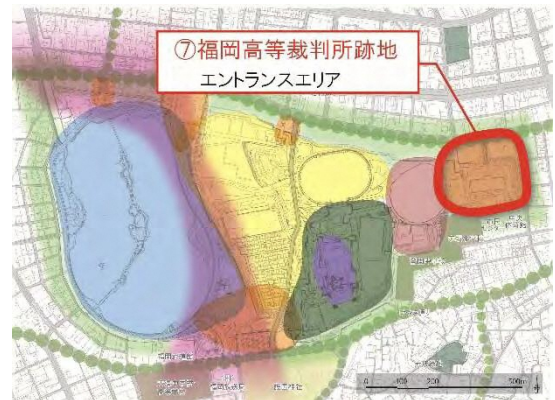
■整備の方向性

a)総合案内施設の配置

- ・来園者が古代から現代まで連なる福岡の歴史の重層性をエントランスエリアで学んでから現地を散策することができるよう、(仮称)セントラルパーク総合案内施設を設けます。

b)地割の表現

- ・上之橋御門からの歩行者動線を舞鶴公園へのメインエントランスとして捉え、福岡城の地割を表現します。



図：福岡高等裁判所跡地 位置図

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

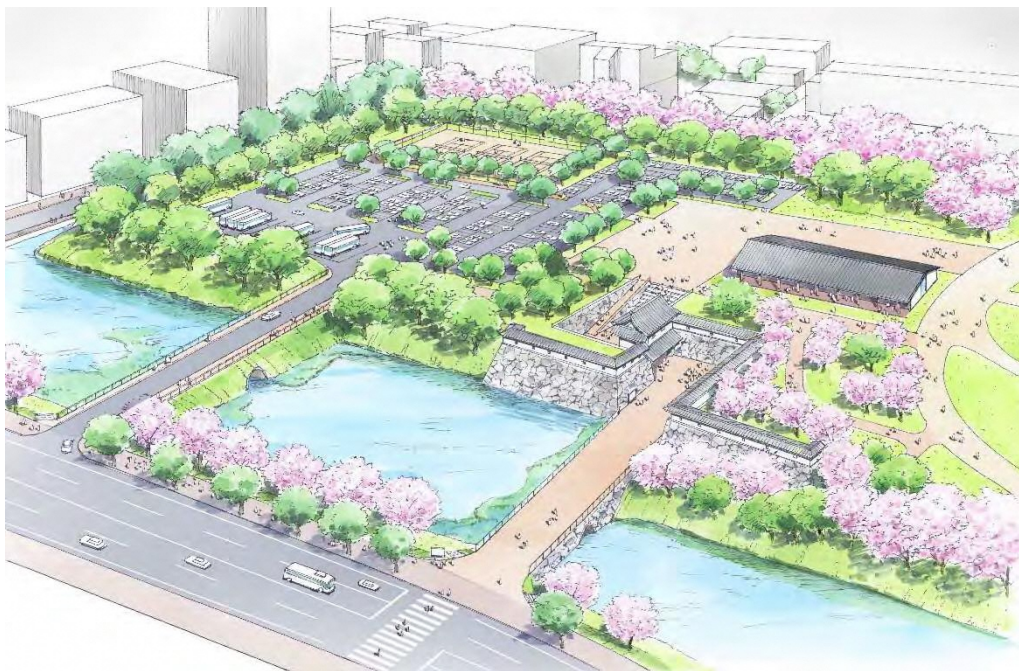
d)安全安心を支える防災拠点としての機能確保

- ・災害時の博多・天神方面からの避難者の受け入れに備え、避難スペースや避難路、災害時に必要な設備の確保を図ります。

e)テニスコートの暫定整備

- ・現在、テニスコートは石垣の目の前に位置しているため、景観的に影響の低い場所に再配置します。なお、将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

■整備イメージ



舞鶴公園へのメインエントランスとして、上之橋御門からの歩行者動線を確保し、総合案内施設を設置します。また、大型の観光バスも駐車できる暫定駐車場を確保します。(高等裁判所跡地の発掘調査の結果により、変更となる可能性があります。)

⑧大濠公園南側エントランス

資料編 P164～166 参照

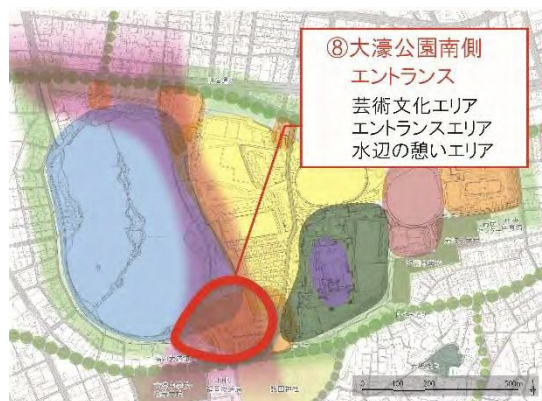
■整備の方向性

a)アプローチのしやすさの向上

- ・舞鶴公園線から福岡市美術館へのアプローチをさらに改善するため、舞鶴公園第2駐車場の移転跡地を活用し、園路を設けます。

b)施設の認知度の向上

- ・大濠公園の周回園路側から日本庭園の存在を感じ取ることができるような雰囲気作りを行います。また、日本庭園の認知度の向上を図ります。



図：大濠公園南側エントランス 位置図

■整備イメージ



舞鶴公園第2駐車場の跡地を活用し、舞鶴公園線からリニューアルした福岡市美術館へアプローチできる園路を設置します。園路からは福岡城の多聞櫓や石垣への見通しを確保することで、両公園の回遊性を向上します。

(3) 施設整備計画

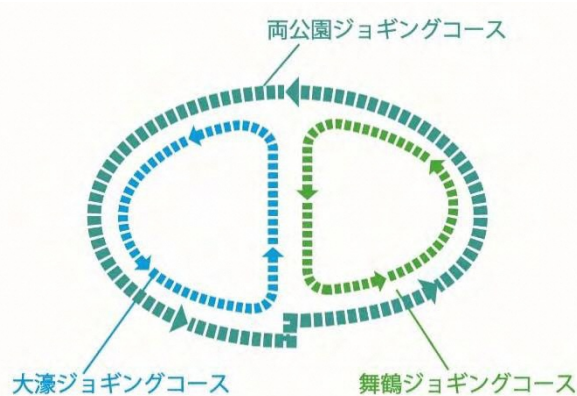
ここでは、両公園の質を高めるための公園内の様々な要素の整備について施設毎に計画します。

(3) - 1. 園路計画

資料編 P132~135,167~168 参照

①基本的な考え方

- 大濠公園の周回園路でなされているジョギング利用が舞鶴公園や両公園全体でも可能になるよう、大濠公園と舞鶴公園をつなぐ動線の強化を図ります。
- 公園周辺の道路とのつながりや、人の動きに配慮した動線を設定するとともに、アクセスしやすく周辺からの公園の見え方に配慮したエントランス空間を創出します。
- 舞鶴公園内を周回できる動線を確保します。
- 災害時の利用にも効果的なエントランスと動線を確保します。
- 来園者がスムーズに舞鶴公園線を横断できる動線を検討します。
- 歩行者や自転車、車いす、管理車両など、それぞれの移動手段が交錯しにくい、安全で快適な動線を設定します。
- 必要に応じてペット連れの来園者も快適に利用できるようにします。

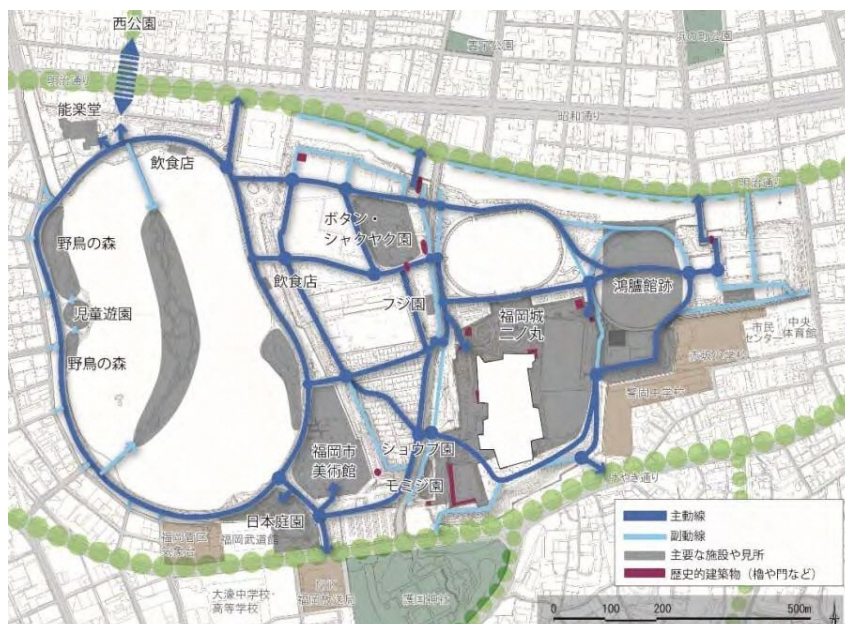


図：ジョギングコースの広がりイメージ

②動線

■**主動線**：第Ⅲ章実施方針1. (2) 主要な動線 (P23) における「水辺の路」、「緑の路」、「歴史をつなぐ路」、「お堀をめぐる路」、という4つの路、及びその路につながるメインエントランスからの動線、4つの路から主要な施設や見所へとつながる動線を主動線とします。

■**副動線**：主動線を補完する動線として位置付けます。両公園内の様々な施設や見所に通じるよう、主動線から枝状に配置します。



図：動線計画図

(3) - 2. 修景計画

資料編 P169～173 参照

①基本的な考え方

樹木類の樹勢・樹形、景観や生物多様性など緑の機能面と、石垣を破損している、史跡に対する眺望を阻害しているなど史跡の保存・活用面から、既存樹木の活用と適切な密度管理をはじめとする植栽の修景を行います。



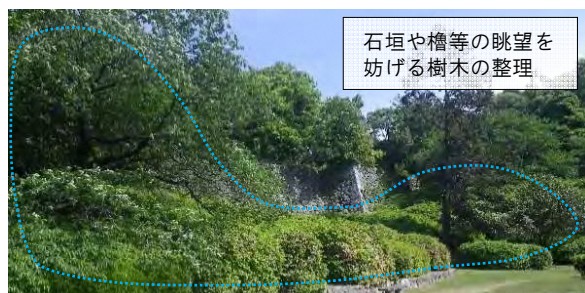
緑の機能面

- 憩いの場としての緑の演出や、歩行の妨げとなる樹木等の整理による安全性の確保、サクラの保存・更新と新たな見所づくり、公園間や公園外からの見通しの確保、みどりとのふれあいの場の創出を行います。また、大濠公園の水面の外周部にある日本庭園、野鳥の森、外周緑地などや、舞鶴公園の福岡城跡の土塁とその周辺部を中心に、都心部における生物の貴重な生息環境の保全を図ります。



史跡の保存・活用面

- 国指定史跡鴻臚館跡、福岡城跡、国登録記念物大濠公園としての見所づくりや、遺構の保存に影響を与えている樹木の整理、史跡地内の外来種樹木の整理、希少樹木や巨木・古木などの保存を行います。



(3)－3. 休養施設計画

資料編 P174～175 参照

①基本的な考え方

- 素材や形状、色などに共通性を持たせ、大濠公園、舞鶴公園全体で統一感のあるデザインとします。
- 園内の回遊動線や広場など、多くの人が利用しやすい位置に新設することとします。
- 整備後の維持管理を考慮し、エリアごとに整備を進めるものとします。
- 石垣など、景観を阻害する場所への設置は避けることとします。
- 景色の良い場所に新設し、四季の魅力や歴史・文化を体感できる空間を演出します。
- 園路沿いの木陰など、休憩しやすい位置への配置を基本とします。

②場所毎の配置

既存の休養施設は適切な維持管理を行いながら継続して活用することとし、老朽化などに伴う再整備のタイミングに合わせて更新します。移転跡地の整備や新たな動線の整備に際しての休養施設の配置の考え方については、園路沿いの木陰など休憩しやすい位置への配置を基本とします。

③デザインイメージ

休養施設は来園者に憩いの空間を提供する重要な施設であるとともに公園の印象を左右する重要な施設です。現在、大濠公園には水辺への見通しを阻害しないよう、背なしのベンチが設置されています。今後、大濠公園については芸術文化エリアにふさわしいデザインの休養施設の設置や、舞鶴公園については、石垣など福岡城跡の本丸・二ノ丸などと鴻臚館跡の歴史的な景観との調和に配慮したデザインの休養施設の設置が必要とされています。

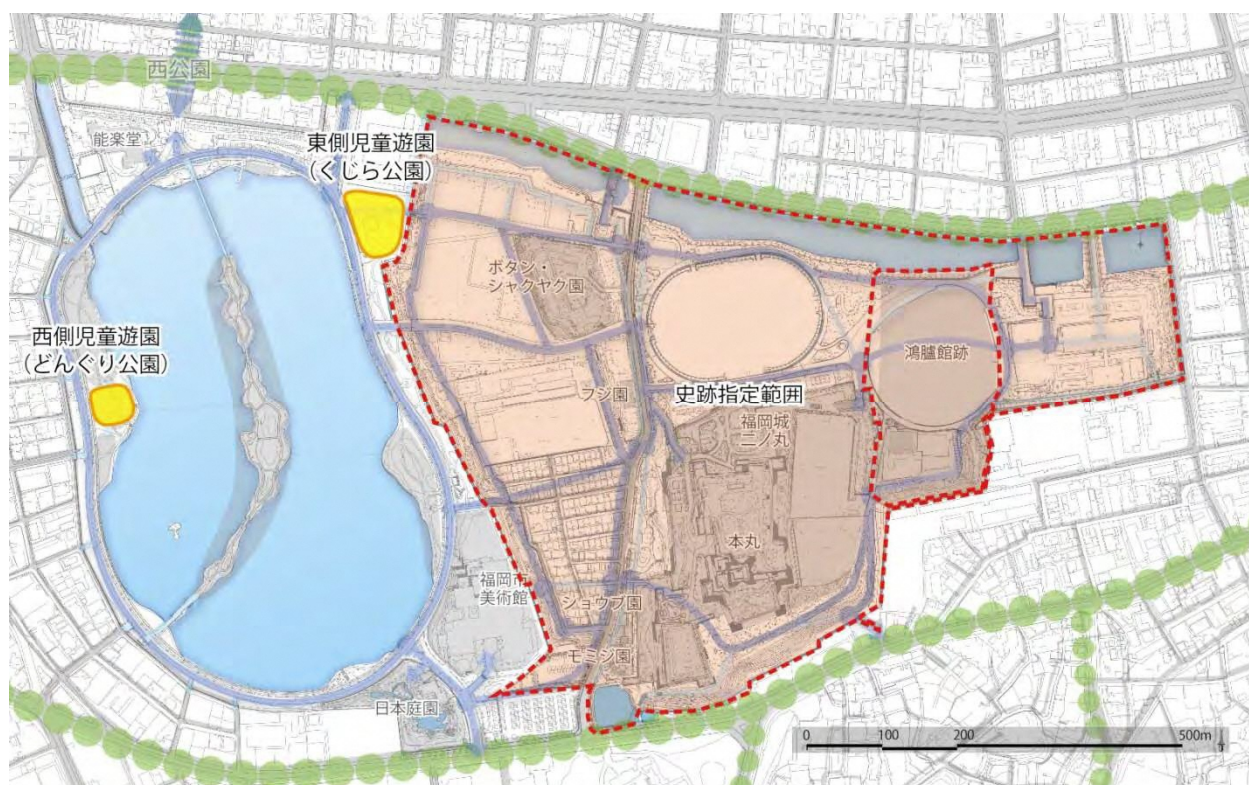
休養施設のデザインの考え方については、設置箇所や想定される利用状況などの特性に応じた適切なデザインのものを設置することとします。

(3)－4. 遊戯施設計画

資料編 P176 参照

①基本的な考え方

- 遊戯施設は史跡指定地内には設置しないことを基本とします。
- 大濠公園内の西側児童遊園（以下どんぐり公園）と東側児童遊園（以下くじら公園）を継続的に活用することとします。



図：遊戯施設計画図

②遊具のイメージ

くじら公園は芸術文化エリアの中の福岡市美術館と能楽堂をつなぐ場所に位置しています。芸術文化の雰囲気が屋外へと広がりを見せると共に、子どもたちが幼いころから芸術や文化と触れ合うことができるよう、くじら公園の遊具は、施設更新のタイミングを踏まえ、芸術性の高い遊具へと更新します。



図：芸術性の高い遊具のイメージ（モエレ沼公園の事例）（モエレ沼公園 HP より）

(3)－5. 便益施設計画

資料編 P177～183 参照

①基本的な考え方

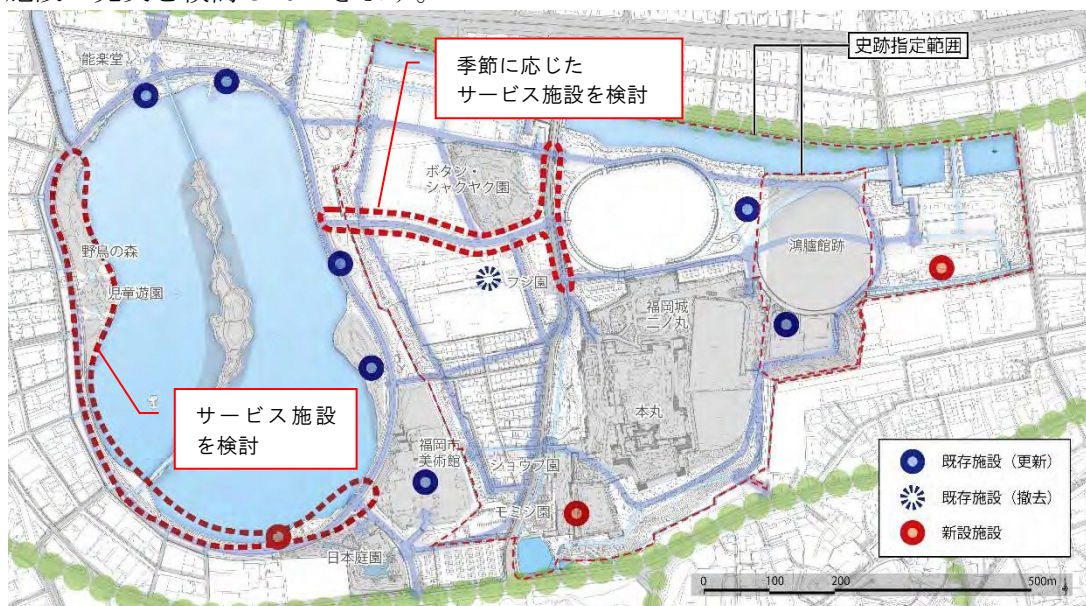
- 施設計画の指標となる年間来園者数や現在の利用状況をもとに、適切な容量を確保します。
- 新たに施設を設ける場合には、遺構の保存に影響の無い位置に配置することを原則とし、来園者の利用動線を踏まえて、安全で利用しやすい位置を選定します。
- 施設の更新や新設の際には、復元された建物や歴史的建造物と間違えられないよう外観に配慮します。形状・素材・色彩等のデザインの統一を図るとともに、シンプルで素材感を活かしたデザインとします。

②サービス施設

両公園の一体的な活用を図るため、それぞれの公園の特徴を活かしながらサービス施設等の配置や整備水準の検討を行います。

■配置方針

- ・高等裁判所跡地に設置する（仮称）セントラルパーク総合案内施設への新たなサービス機能の導入を検討します。
- ・多聞櫓周辺では、保存・修復整備の時期を捉えてサービス機能の追加を検討します。
- ・ボタン・シャクヤク園において、花々や広場での景色を楽しみながら休憩することができるような施設の配置を検討します。
- ・大濠公園の南西側では、水面や野鳥の森の豊かな緑、日本庭園等の環境を活かしたサービス施設の導入を検討します。
- ・ジョギング利用者等の為のロッカー・シャワー等の設備を備えた施設の導入を検討します。
- ・親子連れの為の授乳室等を備えた施設の導入を検討します。
- ・三ノ丸広場沿いの園路など今後の利用が見込まれる箇所は、積極的にサービスの充実を図っていきます。この園路から高等裁判所跡地までをつなぐ動線は、今後の整備に合わせて施設の充実を検討していきます。



図：サービス施設図

③トイレ

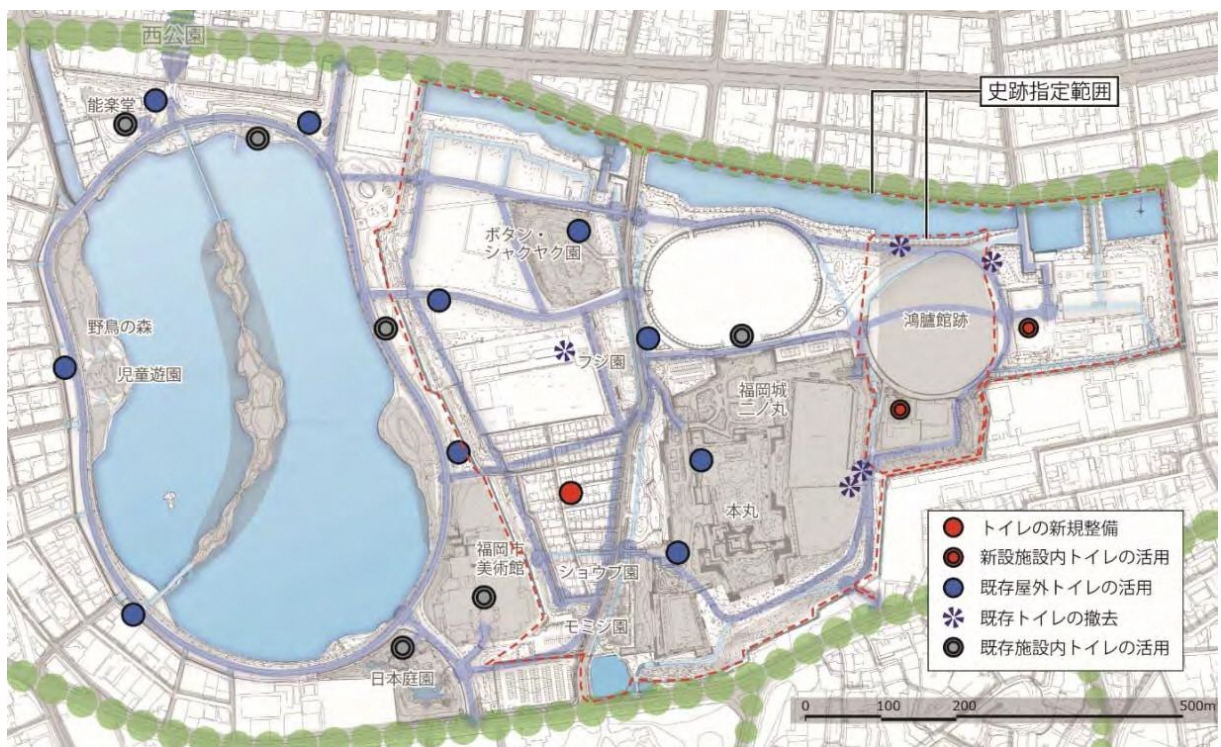
■配置方針

トイレは現状公園内に設置されている穴数で十分な容量が確保できています。今後は、誰もが利用しやすいよう適切な配置や整備水準の向上を図ります。また、非史跡施設移転跡地では、新たにトイレを設置する必要があるかを見定めたうえで適切な箇所に配置します。

■整備方針

誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮し、和式トイレの洋式化を図るなど、現代のニーズにあったトイレの水準とします。トイレの設置・改装に際しては、温水洗浄便座など将来的な整備水準の変化への対応を容易にするため、予め電気配線用の管路を備えることとします。

また、福岡を代表する観光地の一つとして、長期的な視点で歴史的な景観や公園景観への調和に配慮したデザインへと統一を図っていくとともに、誰もがいつでも気持ちよく利用できる環境づくりを推進します。

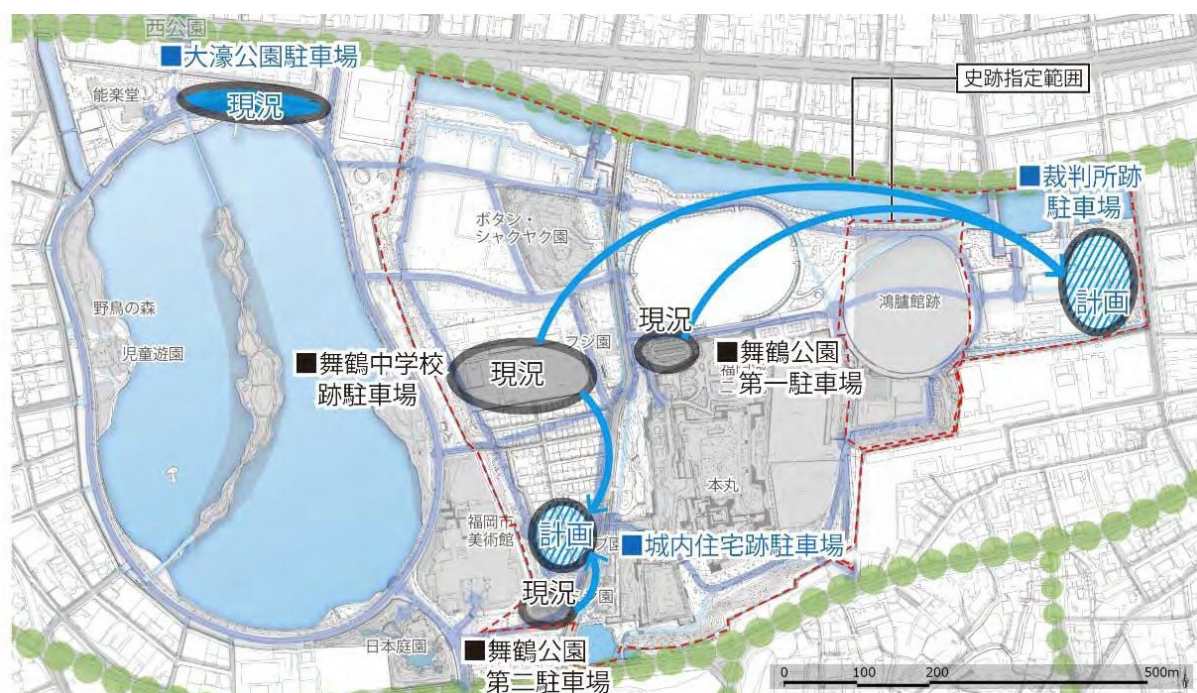


図：トイレ位置図

④駐車場

■配置方針

駐車場は、将来的に史跡区域外に確保することを目標とします。第一段階としては、車両がアクセスしやすく、歩行者動線と交錯しにくい両公園の外周部に暫定配置します。東側からの来園者への対応として福岡高等裁判所跡地に暫定駐車場を配置し、舞鶴公園第二駐車場は公園南側入口部の魅力づくりや、回遊性確保等の観点から城内住宅跡に駐車場機能を移転します。



図：駐車場整備の流れ

■駐車台数の設定

	現況台数	計画台数			
		大濠公園 駐車場	裁判所跡 駐車場	城内住宅跡 駐車場	合計
一般乗用車	513 台	100 台	260 台	140 台	500 台※
大型バス	21 台	2 台	18 台	10 台	30 台

※算定された一般乗用車の駐車台数 500 台の内 7 台は車いす利用者用

⑤駐輪場

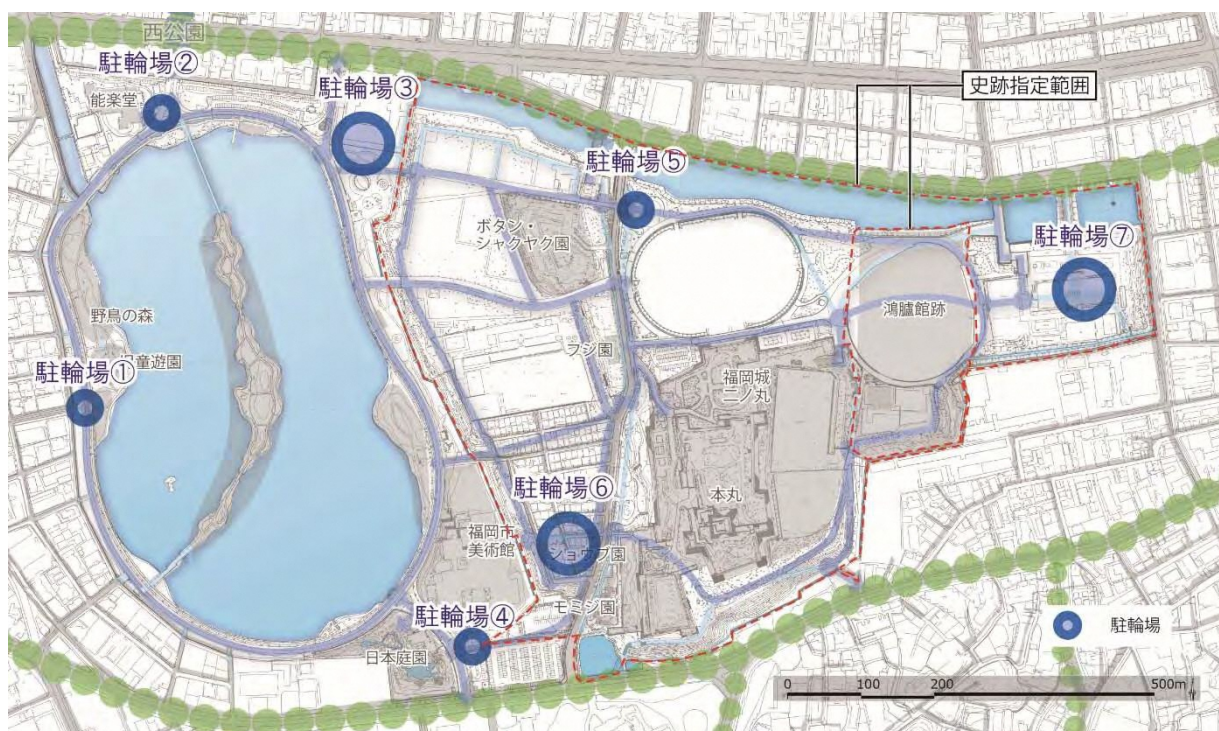
■配置方針

・車両動線との分離

来園者が駐輪するにあたりできるだけ車両動線と交錯しない位置に駐輪場を配置します。

・駐輪台数の分配

駐輪場の配置は、駐車場やエントランス周辺に設置することとし、平成 25 年度に実施された交通量調査をもとに各出入口部の来園者数の比重を考慮して設定します。なお、公園外の駐輪場の状況も踏まえ、有料化も含めた運用を視野に入れるとともに、将来的には、駐輪場を史跡区域外で確保することとします。



図：駐輪場計画図

■駐輪台数の算定

番号	駐輪場①	駐輪場②	駐輪場③	駐輪場④	駐輪場⑤	駐輪場⑥	駐輪場⑦
台数	30 台	60 台	120 台	90 台	60 台	120 台	120 台

合計 600 台

(3)－6. 管理施設計画

資料編 P184～185 参照

①基本的な考え方

- 管理施設は来訪者が安全で快適に公園を利用するために最低限必要なものを設置します。
- 史跡地内に新たに管理施設を設ける場合や既存管理施設の更新を図る際には、遺構に影響を与えないことを前提とします。
- 配線・配管類は公園や史跡の景観との調和に配慮して埋設・再配置を検討します。
- 照明は夜間の安全確保と景観の演出の二つの視点で配置します。
- デザインの統一を推進するとともに、景観に調和したシンプルで素材感を活かしたデザインとします。

②管理施設の設置方針

・門扉、柵及び車止め

門扉、柵及び車止めは、景観や遺構への影響に配慮し、来訪者の安全性を高めスムーズな公園利用を推進するため最低限必要な箇所に設置します。

・電線の地中化

事前に調査を行い、遺構の保存に十分留意したうえで舞鶴公園の電線の地中化を行います。

・夜間の安全性確保

園路沿いや広場に照明施設を設置し、夜間でも安心して歩ける明るさを確保します。整備にあたっては、公園の明かりが近隣の住宅街にとってまぶしくないように配慮します。

・夜間の演出

水辺や緑、史跡を夜間でも視認できるように、公園の雰囲気と調和し、夜の景観を演出する照明施設を設置します。昼間の景観を阻害しないデザインとするとともに、鳥類など夜間の休息を阻害しないよう配慮します。

・イベント利用への対応

既存や新たに整備する広場では、様々な集客イベントに対応するため、給水・排水設備や電気設備等の充実を図ります。



図：電線の地中化イメージ

(3)－7. サイン計画

資料編 P186～187 参照

①基本的な考え方

- 両公園内に設置されているサインについてデザインと掲載情報の統一等を推進するため、両公園共通のサインマニュアルの作成を推進します。
- サインをはじめとする情報提供施設は、海外からの来訪者にも利用しやすいよう多言語での表記やピクトグラムの掲載を推進します。

②サインデザイン

・統一デザイン

サインデザインは統一的な形状や素材、色彩を基本とします。既存のサインについては状況に応じて適切なタイミングで撤去し、素材や形状に統一感があるものへと更新します。

・シンプルな造形

サイン自体は装飾をできるだけ取り除き、周囲の景観との調和が図れるようシンプルでありながら品位が感じられる造形とします。

・落ち着いた色彩

サインの色彩は、史跡地としての雰囲気にも馴染むような落ち着いたものとします。

・ユニバーサルデザイン

様々な人が目的地まで快適に移動し、必要な情報を取得できるユニバーサルデザインとします。

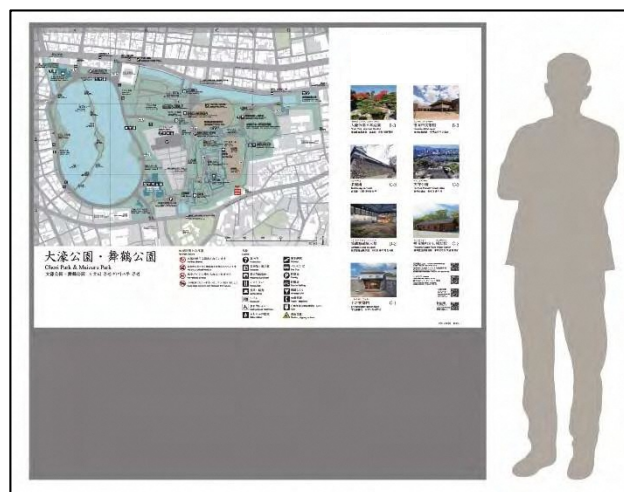
・持続性の高いデザイン

耐久性やメンテナンス性の高い素材に配慮するとともに、版面の更新などを行いやすい機能的な構造にすることで持続性の高いデザインとします。

③表示内容の統一方針

サインの表示面は基本的なレイアウトや地図、写真、フォント、ロゴ、文言などの使い方の統一を図ります。また、多言語表記を基本とし、JIS規格のピクトグラムの掲載を推進し、誰にでもわかりやすい表示内容への統一を図ります。合わせて、スマートフォンアプリなどを活用し、今後増加する多国籍の来訪者への対応を図ります。

公園内の歴史的な遺構や資源等の見所付近に設置する解説サインについては、往時の情景をイメージできる写真や絵図、QRコードで読み込めるVR・ARの解説システムなどにより理解を深める表示内容とします。



図：サインのイメージ

(3)－8. 災害時における公園の役割

資料編 P188～192 参照

①基本的な考え方

- 地域防災計画において広域避難場所に指定されている公園として、大濠公園と舞鶴公園で連携した防災拠点づくりを推進します。
- 平常時の公園・史跡として担う役割と、災害時に担う避難場所としての役割の両立を図ります。
- 災害時に救援活動の拠点となる中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等の周辺施設の連携の強化を図ります。

②各施設の方針

・避難スペースの確保と安全性の向上

非史跡施設の移転跡地を中心に避難スペースとして利用できる広場の拡充を図ります。また、石垣や歴史的建造物が集中している箇所は、石垣等が崩壊するおそれがあることから、大規模な地震が発生した際には立ち入りを制限することとします。



図：公園内の主要な避難スペースと出入口

・防災機能の向上のための動線確保

土塁の保護の観点から短期的に幅員を拡幅することが難しいことから、出入りのしやすさや、歩きやすさの向上を図るとともに、長期的な視点で周辺の公有地を活用した出入口部の拡幅を図ります。

・防災機能向上のために導入する施設

大濠公園・舞鶴公園における避難者の一時避難生活の環境向上を図る為、飲料水や食料の備蓄、生活用水、エネルギーなどの確保にあたって必要な設備等の導入を検討します。

・周辺施設との連携

災害時の地域拠点としては中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等が機能することから、公物資や人材、情報伝達などの連携を育む仕組みづくりを行います。

・平常時における施設の積極的な活用や普及啓発

平常時から公園に整備されている施設の活用体験や炊き出し訓練、ホームページ等を用いた積極的な周知を行うなど、災害時における施設の役割の周知・普及を推進します。

4. 全体計画

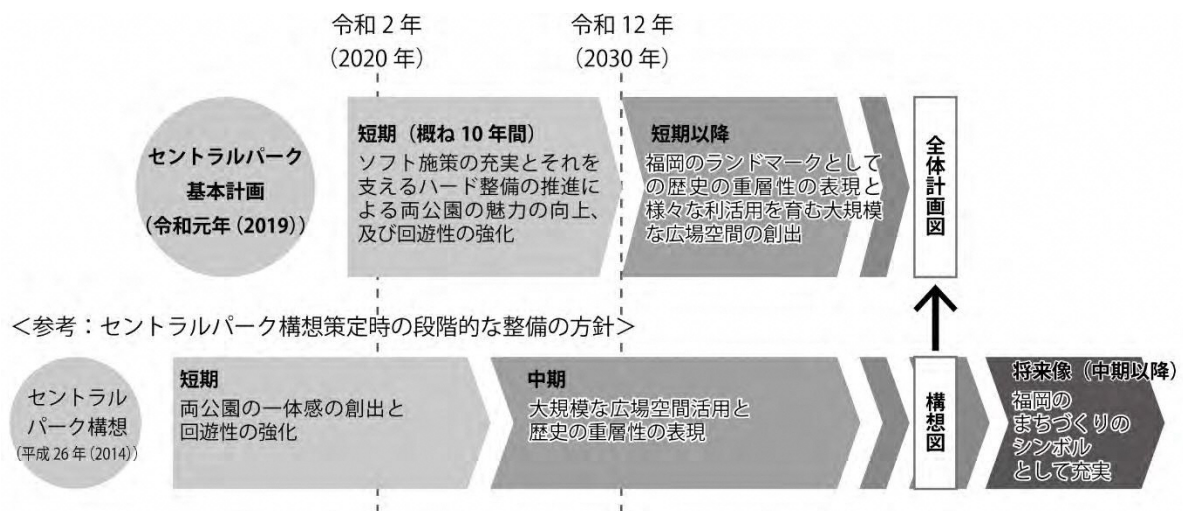
両公園の整備の方向性を踏まえ、エリア整備計画、施設整備計画で示した内容を統合してセントラルパーク構想（H26.6 策定）における構想図を具体化した全体計画を以下に示します。



第Ⅵ章 将来像の実現に向けて

1. 事業の進め方

ここでは、短期（概ね 10 年後）と短期以降に分けて管理運営や再整備の事業方針を示します。また、持続的に改善し続けていく公園を実現するため、短期終了後には社会情勢や公園ニーズの変化等への対応や、短期の中で実施した施策内容の評価、及びそれに基づく改善策の検討を行います。



※セントラルパーク構想で示した 2030 年頃の構想図は、基本計画では更に長期的な目標として取り扱うものとします。

10 年毎の計画を定め、PDCA を繰り返しながら目標の実現を図ります。

（１）短期（概ね 10 年間）

・ ・ 両公園の持つ魅力の向上と回遊性の強化 ・ ・

短期においては、歴史やみどり、文化などの両公園が持っている魅力の向上を図るとともに、公園間の移動環境の向上や、エントランス空間の機能強化などを優先した施策を展開します。

表：事業の主な内容

項目	ソフト施策	ハード施策
大濠公園 舞鶴公園	・管理運営体制の充実強化 ・四季折々のイベントの開催 ・両公園の特性を活かした利用プログラムの充実 ・市民参加の仕組みづくり ・市民や民間の活力を活かした公園財源の確保 ・周辺のまちづくりへの展開	・両公園をつなぐ園路（ジョギングコースを含む）の機能強化と回遊性の向上 ・エントランス機能の拡充 ・木々や花々等による四季の魅力づくり ・施設デザインの統一 ・非史跡施設移転跡地の整備・活用
福岡城跡 (国史跡福岡城跡 整備基本計画より)	・継続的に発掘調査・整備状況を公開する。 ・福岡城跡とその時代背景への理解を深められるよう、ガイダンスシステムを活用する。 ・史跡にふさわしい多様なイベントを実施する。 ・情報の継続的な発信を行う。 ・地域の住民をはじめとする関係者等への事業計画の広報宣伝を行う。	・歴史性再現の継続実施（潮見櫓等の復元） ・外部から見た歴史景観再現の充実 ・施設の移転に伴う三ノ丸の整備 ・現存、復元遺構の顕在化を維持するための植栽密度管理
鴻瀬館跡 (国史跡鴻瀬館跡 整備基本計画より)	・歴史を知り体験する場としての活用 ・オープンスペース＋サイトミュージアムとしての活用 ・広域観光への展開を視野に入れた活用 ・ユニークベニューとしての活用 ・活用における民間活力の導入	・展示館の改築 ・屋外の展示等の整備 ・ガイダンス機能の整備 ・歴史景観の創出（地形復元等）

※上記スケジュールについては、今後の諸状況の変化により変更となる場合があります。

（２）短期（概ね 10 年後）以降

・ ・ 福岡のランドマークとしての充実 ・ ・

両公園が福岡の真のランドマークとなるよう、遺構の復元などをはじめとした歴史の重層性の表現の充実や、広大な広場空間の創出などの整備を行います。また、県民・市民、観光客に愛され続ける公園となるための仕組みづくりや組織作りを進めます。

短期で実施した施策の評価を行い、踏襲すべき内容や改善すべき内容を把握し、更なる魅力の向上につなげます。

■短期（概ね10年間）イメージ

公園間の移動環境の向上や、エントランス空間の機能強化などを優先して、短期の施策である以下イメージ図における着色部分の整備を進めていくこととします。

(両公園全体で実施)

大濠公園北側エントランス のアクセス性強化

両公園で統一したサイン整備とベンチの充実

潮見櫓の復元

大濠公園・舞鶴公園の
一体的な回遊性向上

木々や花々による四季の魅力づくり

日本庭園の認知度向上

福岡市美術館の
エントランス空間づくり
(福岡市美術館へのアプローチの改善)
(美術館側から石垣や多聞櫓への眺望を確保)

公園のアクセス性向上

史跡や緑を楽しめる
周回園路の確保

高等裁判所跡地の整備

鴻瀾館跡の活用

※印は暫定施設

7